

2019年度
なごや環境大学
活動報告書
2019.4 ~ 2020.3



「なごや環境大学」実行委員会

(敬称略・2019年12月1日現在)

名誉委員長	河村たかし	名古屋市長
委員長	堀場 和夫	名古屋市副市長
学 長	涌井 史郎	東京都市大学 特別教授
実行委員	加藤 玲子	名古屋市地域女性団体連絡協議会 会長
	中村 剛	名古屋市保健環境委員会 会長
	神野 英之	名古屋市区政協力委員議長協議会 議長
	野中 賢輔	なごや外来種を考える会 会長
	松本イズミ	NPO フィトラボ 代表
	山口ゆずみ	特定非営利活動法人コンソーシアム有松 事務局長
	緒方 隆文	OPA オガタ プランニング アソシエイツ
	杉野 実	M ¹ _Project デザインプロデューサー
	西野圭一郎	NISHINO DESIGN OFFICE 代表
	平石 晶代	株式会社ナックプランニング
	小川 勝美	環境パートナーシップ・CLUB 総合事務局長
	坪井 明治	名古屋市商店街振興組合連合会 理事長
	鶴飼 宏成	名古屋市立大学大学院 経済学研究科 教授
	大鹿 聖公	愛知教育大学教育学部 教授
	九里 徳泰	相模女子大学学芸学部 英語文化コミュニケーション学科 教授
	前田 洋枝	南山大学総合政策学部 准教授
	横山 陽二	名古屋外国語大学現代国際学部 准教授
	吉田 耕治	金城学院大学薬学部 薬学科 准教授
	河田 誠一	名古屋市総務局 企画調整監
	藤井 昌也	名古屋市教育委員会 教育次長
	増田 達雄	名古屋市環境局 環境都市推進監
	蒲 和宏	名古屋市環境局 環境推進専門員／「なごや環境大学」実行委員会 事務局長
監 事	加藤 明司	加藤明司会計事務所 所長
	植村 信一	名古屋市会計室 次長
参 与	片桐 泰明	経済産業省中部経済産業局 資源エネルギー環境部 環境・リサイクル課長
	佐藤 綱洋	名古屋商工会議所 産業振興部長
	香坂 玲	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
	祖山 薫	一般社団法人 中部経済連合会 防災・環境部長
	小林 直人	国土交通省中部運輸局 交通政策部 計画調整官
	柘植 孝之	愛知県環境局環境政策部 環境活動推進課長
	高橋 賛	農林水産省東海農政局 生産部 生産技術環境課長
	梶田 達也	国土交通省中部地方整備局 企画部 環境調整官
	萩ノ脇裕司	環境省中部地方環境事務所 環境対策課長
チ ャ ム 員	浦野 愛	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 常務理事
	江坂恵里子	ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会 プログラム・ディレクター
	上田 聡司	プラスディーアンドシー合同会社 代表職務執行者社長
	加藤 美奈	株式会社Comodo LABO 代表取締役
	小林 幸江	ブラザー工業株式会社 CSR&コミュニケーション部
	中森 浩二	公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会 会員
	宮木 歩美	中部電力株式会社 環境・地域共生室 環境コミュニケーションチーム副長
	井垣 理史	名古屋学芸大学 メディア造形学部デザイン学科 准教授
	鈴木慎太郎	愛知学院大学法学部 教授
	曾我 幸代	名古屋市立大学大学院 人間文化研究科 准教授
	田嶋 佑奈	株式会社エスプールプラス
	堀部沙也加	飛騨五木株式会社
	岸 晃大	名城大学 4年生
	鈴木 菜月	愛知大学 4年生
	深津あづ美	愛知淑徳大学 4年生

目次

はじめに.....	P2
学長挨拶.....	P3
なごや環境大学って何？.....	P4
開学以降の講座等実績の推移と 2020 年度への展望	P6
2019 年度の振り返りと次年度への展望～アンケート調査結果から～.....	P8
共育講座・共育ゼミナール.....	P11
2019 年度実行委員会主催事業・イベント出展の一覧.....	P12
2019 年度連携講座・キャンパスネットワーク一覧.....	P13
2019 年度共育講座一覧（前期）	P14
2019 年度共育講座一覧（後期）	P16
実行委員会事業～1 年の歩み.....	P18
持続可能な社会づくり～SDGs 達成を目指して～	P20
全体総括、活動サポートチーム報告.....	P22
企画チーム報告、広報チーム報告.....	P23
ユースチーム報告、森林プロジェクト報告.....	P24
なごや環境大学の歩み.....	P25
なごや環境大学運営協力者一覧.....	P28
2019 年度「なごや環境大学」実行体制.....	P29

なごや環境大学は、パートナーシップを軸に SDGs の達成を目指します。



SDGs とは「Sustainable Development Goals」（持続可能な開発目標）の略称です。



はじめに



なごや環境大学は、分野や主体、世代をつなぎ、行動する市民、協働する市民が「共に育つ（共育）」ことを目的とし、2005年に開学しました。現在では、持続可能な社会の担い手づくりの先進的事例として、広くその名を知られるようになりました。なごや環境大学の取り組みが全国的に評価されていることをうれしく思います。

これもひとえに、これまでご尽力いただいた関係者の皆様や市民の皆様のおかげであり、心より感謝します。

なごや環境大学では、国内外で幅広くご活躍をされている造園家・ランドスケープアーキテクトの涌井史郎学長のもとで、様々な事業を展開してまいりました。

2019年度も多くステークホルダーと協働することで、潮流に沿った環境テーマの企画を実施しました。その中でも、主催事業として実施した自治体ミーティングは、22自治体に参加していただき、SDGsの目標達成に向けた意見交換や、今後の情報交換のネットワークを作るまたとない機会となりました。

名古屋市では、「なごや環境学習プラン」を策定し、持続可能な社会の実現に向けた人づくり・人の輪づくりを環境面から推進していくための取り組みを進めています。このプランの中では、「分野や主体、世代を超えた学び合い」が重要なキーワードとして挙げられています。

「分野や主体、世代を超えた学び合い」の場として、なごや環境大学の果たすべき役割は益々高まっています。持続可能な社会の担い手づくりのためにも、今後とも様々な取り組みを進めてまいります。

なごや環境大学を支えていただいている皆様には、引き続きご支援とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

「なごや環境大学」実行委員会 名誉委員長
名古屋市長 河村 たかし



なごや環境大学学長の涌井史郎です。

日本には「いなし」という言葉があります。向かってくる力を「かわす」「はぐらかす」「追い払う」といった意味で使います。

日本人は伝統的に自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用する考え方、自然と共生し、生態系が持っている力を使うことで、小さな自然災害はある程度受け入れながら、甚大な影響を及ぼす災害から逃れる、すなわち「いなし」ができるまちづくり、今でいうグリーンインフラの思想を堅固に維持してきました。

名古屋市では2027年にリニア中央新幹線の開業を予定しています。社会的・経済的な大変容が必要となる名古屋のまちづくりでは、日本が誇る「いなし」のできる、生き物の恵みを大切にした「環境首都なごや」となることを今から楽しみにしています。

一方、国際社会に目を向けますと、2030年までの世界共通の、「持続可能な開発目標 SDGs」が掲げられ、時代の転換点を迎えるにあたっては17の目標にもあるパートナーシップの充実、強化が求められています。

なごや環境大学に2019年度から発足した森林プロジェクトでは、多面的な価値を有する森づくり・木づかいの価値・意義を学び、実際に森に入り、現地の方々と森林整備をすることにより、都市部の人と山間部の人、つくる人とつかう人のパートナーシップを意識したプログラムを組み立てました。

持続可能な社会を考えてみますと、広域でのパートナーシップが求められ、お互いが利益を求めあうのではなく、お互いに認め合う社会、豊かさを追うのではなく、深める社会を目指していくことが必要になるのだと考えています。

『環境の取り組みは名古屋に学べ』と言われるよう、私も尽力してまいりますので、引き続き、なごや環境大学に格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「なごや環境大学」学長
涌井 史郎

なごや環境大学って何？

市民 / 市民団体(NPO/NGO)・企業・教育機関・行政が立場や分野をこえて協働で運営し、知識や経験、問題意識を持ち寄って学び合うネットワークです。

子どもから大人まで、どなたでも参加できます。

目的

「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ(共育)」ことを目的としています。

入学資格

〈エコ・ゴコロ〉だけです。

環境に関心のある、すべての人を歓迎します。子どもから大人まで、「環境問題はむずかしそうだ」という人も、「活動の輪を広げたい」という人も参加できます。

内容

協働による講座・ゼミナールなどの運営

学ぶ！ 講座に参加する

楽しみながら学べる講座を多数ご用意しています。



動かす！ ゼミナールで活動する

「なごやをもっとエコに！」と、さまざまな団体が活躍中！仲間と一緒に、新しいことにチャレンジしてみませんか？



発信する！ 企画・運営する

あなたも、何か企画してみませんか？毎年6月と11月に講座・ゼミナール(ゼミナールは11月のみ)の募集を行っています。初心者の方も、歓迎です。



学びのスタイルはさまざま！



教室で学ぶ

専門家から直接学べます！



自然を体験

田植えや自然観察に出かけましょう！



子どもと成長

子ども向け、親子向けの講座も！



企業の取り組みを知る

“企業のエコ”を見学できます！



エコライフに挑戦

料理やお買い物のコツを紹介！



スキルアップ

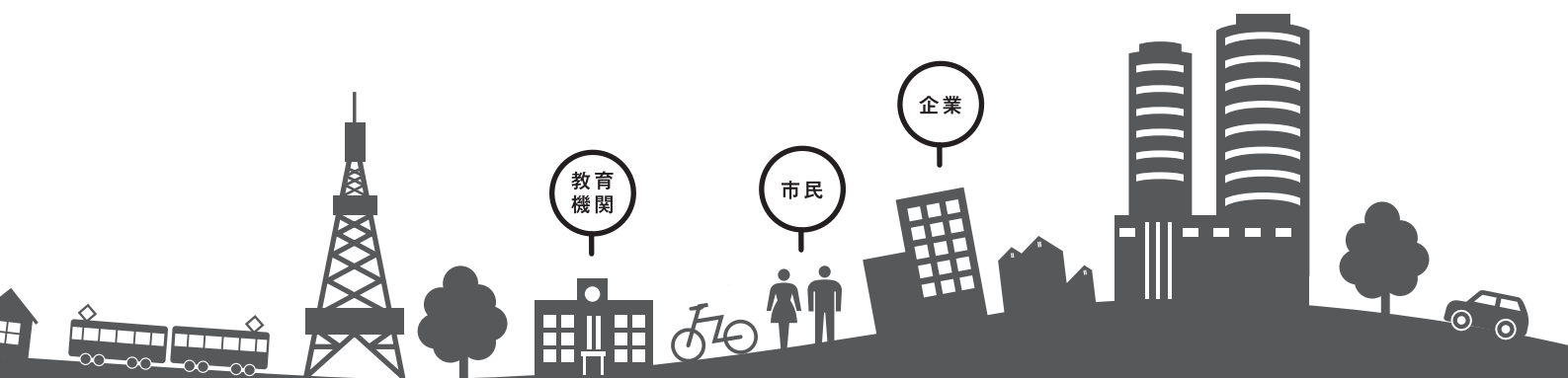
自分磨きのための勉強会もあります！

つながるエコ ひろがるハッピー！

まちじゅうがキャンパス

里山や水辺…教室や工場も…どこでも実施！

詳しくはHPをチェック！ <https://www.n-kd.jp/>



ネットワークづくり

ひととひと、団体と企業、行政や教育機関などそれぞれの得意分野や持ち味を活かし、大きな成功へと導く関係づくりを行います。

また、市民参画のプロジェクトによって、ひととひとをつなぎ、ムーブメントをつくりだします。異なる分野のひとの出会いの場を提供し、ひとの輪を広げます。

情報発信

多種多様な講座を紹介したガイドブックを年2回発行しています。

また、地球環境から身近な環境まで分かりやすくまとめた「なごや環境ハンドブック」を発行しています。

たくさんのひとが利用するソーシャルメディアやホームページ、大勢のひとが集うイベントなどを通じて誰もが参加、参画できる情報を発信しています。



サポート／コーディネート

ネットワークを活かし、企業や行政、教育機関などのESD^{※1}活動（学習プログラム・研修プログラム・CSR^{※2}プログラム）のサポート支援、関連団体などとの橋渡しを行います。

※1 ESD=Education for Sustainable Development の略 持続可能な社会を支える担い手づくり

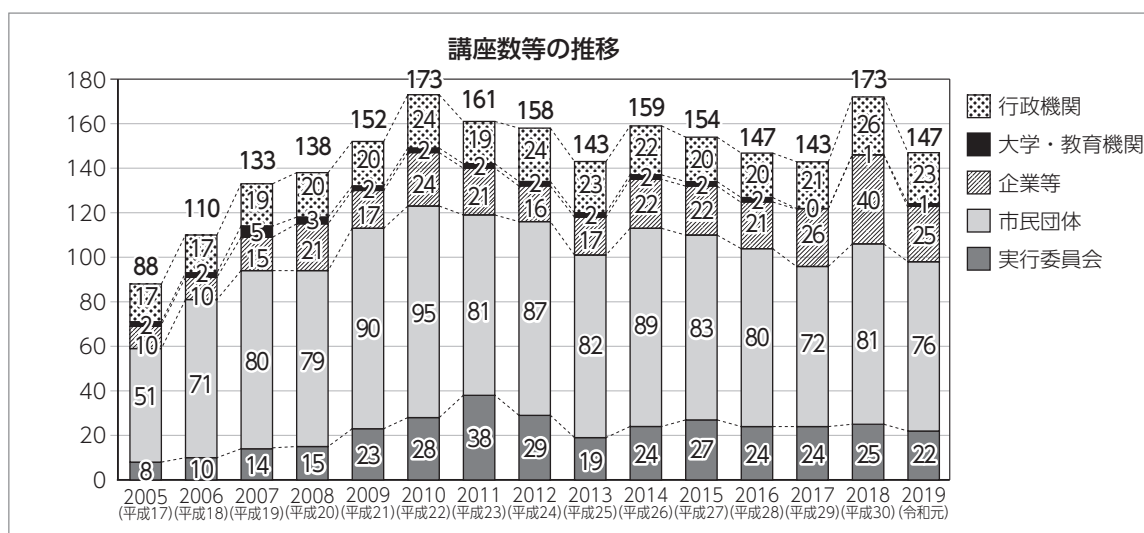
※2 CSR=Corporate Social Responsibility の略 企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動

なごや環境大学 開学以降の講座等実績の推移と 2020 年度への展望

■講座等実績の推移

1. 講座数の推移

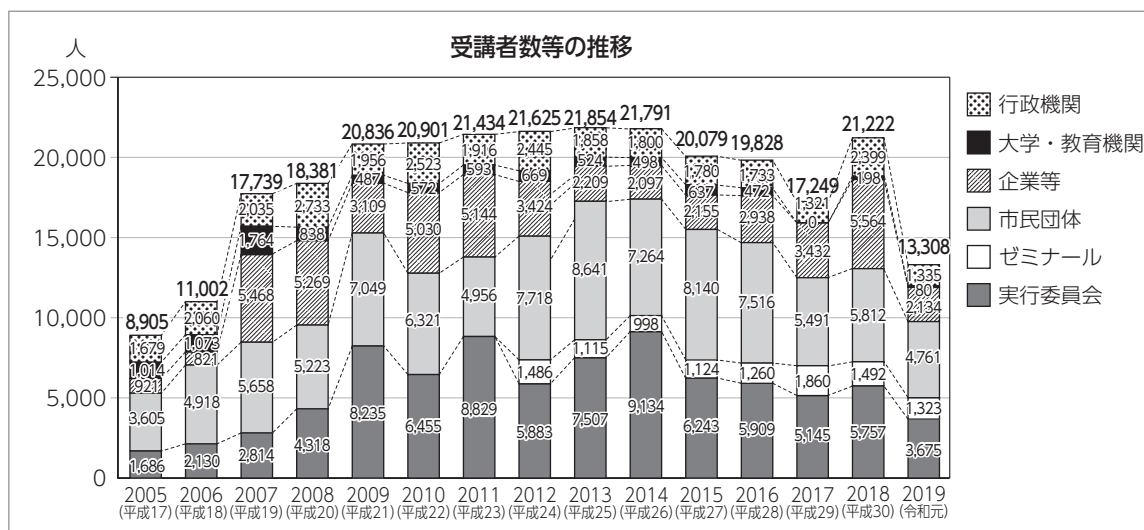
「なごや環境大学」実行委員会および各企画団体が実施した 2019 年度の講座数は 147 講座でした。こみ非常事態宣言 20 周年事業のあった昨年度は増加しましたが、2019 年度は平年並みの講座数になっています。



2. 受講者数等の推移

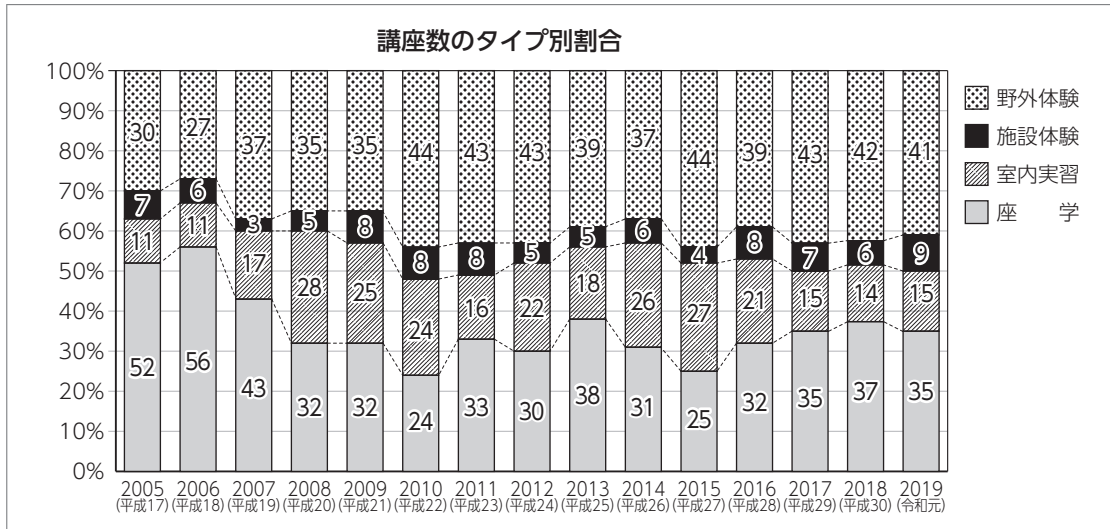
2019 年度の受講者数は昨年度に比べ 4 割ほど減少しました。企画団体別の内訳では、実行委員会、市民団体が 4 千人前後、企業等は 2 千人ほどの受講者でした。

2019 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2 月以降イベント、講座などが中止や延期になりました。

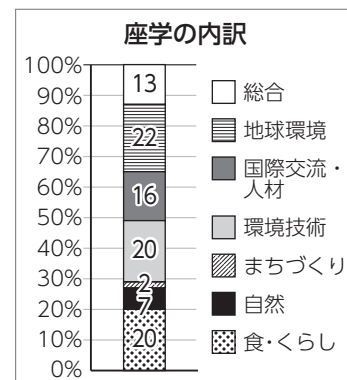
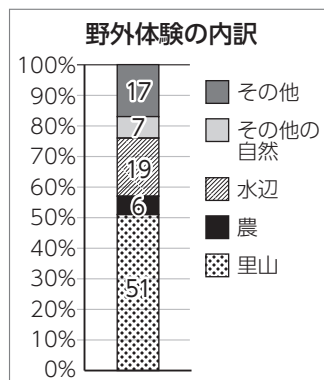


3. 講座タイプ別割合の推移

開学当初は座学が5割以上を占めていましたが、現在では座学が3割台となっています。また、野外体験、施設体験、屋内実習などの「体験・実習型講座」が6割台と講座のタイプが多様化しています。



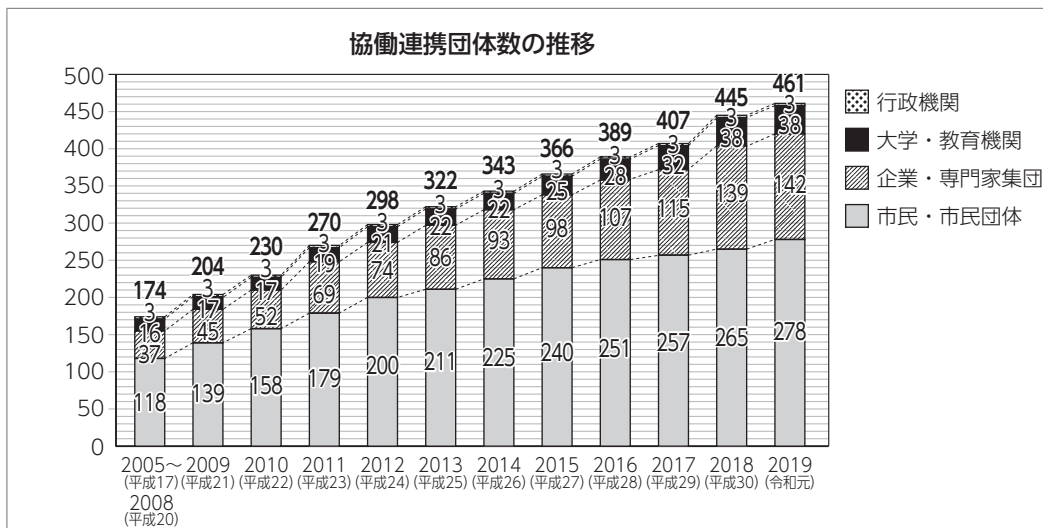
2019年度の講座タイプ別割合で、野外体験41%と座学35%で8割ほど占めています。野外体験の内訳は、里山や農、水辺、その他の自然など、多岐にわたります。座学の内訳も、食・くらし、自然、まちづくり、環境技術、国際交流・人材、地球環境と広範囲です。



4. なごや環境大学を支える仲間たちの推移（累計）

なごや環境大学を支える協働連携団体の累計は、2019年度で461団体となり、開学当時の2倍以上になりました。毎年20前後の新しい団体が増えています。

なごや環境大学は多くの仲間たちによって支えられています。



■なごや環境大学 2019 年度の振り返りと次年度への展望

～なごや環境大学受講生および
講座主催団体へのアンケート調査結果から～

代表幹事 大鹿 聖公（愛知教育大学）

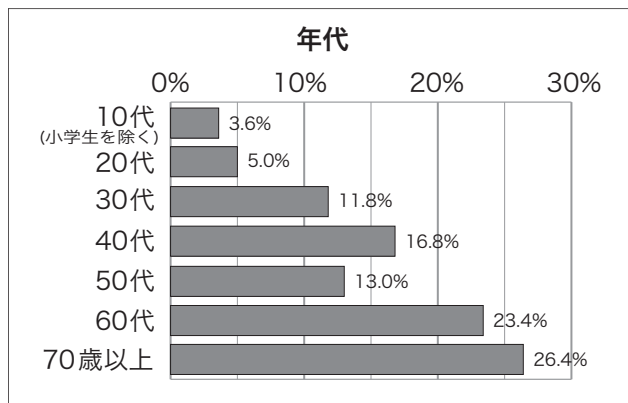
2019 年度に実施した各種講座および小学生向け講座の受講者、講座企画者を対象としたアンケート結果から、なごや環境大学の活動の振り返りを行いました。

1. 各種講座受講者に関する分析結果

講座の受講者の中から、延べ 4,164 名のアンケート回答をいただきました。回答いただいた受講者の皆さん、ご協力ありがとうございました。なお、それぞれの設問は、有効回答のみを集計しています。

●年齢

受講者の年代は「70 歳以上」が 26.4% と最も高く、ついで、「60 代」が 23.4%、「40 代」が 16.8% でした。「小学生を除く 10 代」3.6%、「20 代」5.0% と若い世代の比率が飛び抜けて低くなっています。年代による傾向については、ここ数年変化は見られていません。ユース向けの講座の取組など積極的に行っており、若い世代向けの講座の改善を試みっていますが、全体から見てその結果が表れていないのは残念です。



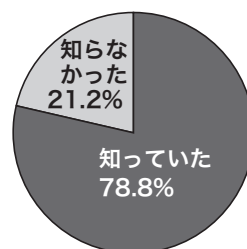
●在住・在勤地

受講者の在住・在勤地は名古屋市内 64.5%、愛知県内を含めると 93.5% と、ほとんどが愛知県内の受講者となっています。名古屋市を中心に講座が開催されていることから妥当な結果と伺えます。

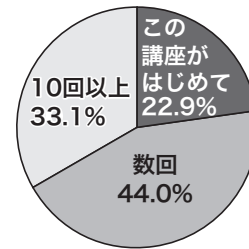
●認知度と受講経験

なごや環境大学の認知度について、受講者の 78.8% が講座受講以前から「知っていた」と回答していました。この比率は 2018 年度と比較して 4.8 ポイントの増加でした。新規受講者である「初めて受講した」方は 22.9% と、2018 年度と比較して 3.7 ポイント低下した一方、「10 回以上」のリピーターが 33.1% と、昨年度より 2.7 ポイント増加しました。意欲が極めて高いリピーター層を受講側から、講座の企画・運営へと巻き込み新たな企画を産み出すとともに、上記の年齢層も合わせて、若者を中心とした、新たな新規受講者が参加しやすい、興味をもつ講座の開設などに取り組む必要があると考えられます。

なごや環境大学の認知度



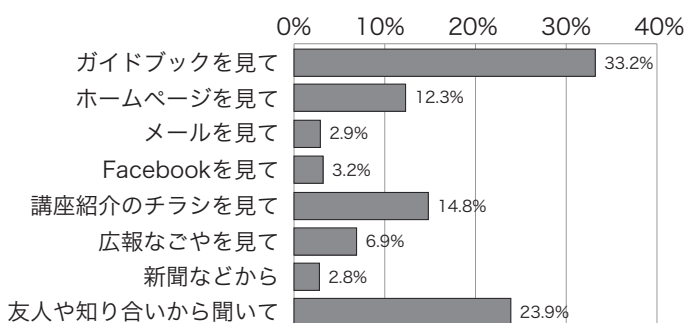
講座への参加回数



●情報入手方法

講座情報の入手については、「なごや環境大学のガイドブック」を見て知った割合が 33.2%、「友人や知り合いから聞いて」という口コミが 23.9%、合わせて全体の 5 割を超えていました。「ホームページを見て」という回答が 2018 年度の 10.4% から 12.3% に増加しましたが、「チラシを見て」が 2018 年度の 11.6% から 14.8% と 3.2 ポイント増加しました。2019 年度はネットワークを活用してチラシの配布先を増やしたことが、増加につながったと考えられます。従来型の冊子媒体であるガイドブックも、年度後期より表紙のデザインコンペを行い、若者や新規層に向けた取組を行いました。まだ、数値としての効果は具体的にみられていませんが、今後継続することで改善が図られると思います。今後は、内容構成をよりわかりやすく改善していくとともに、若い世代や新規受講者を増やすため、スマートフォンやタブレット端末などマルチメディア対応表示など、より充実して分かりやすい情報提供などに取り組んでいきたいです。

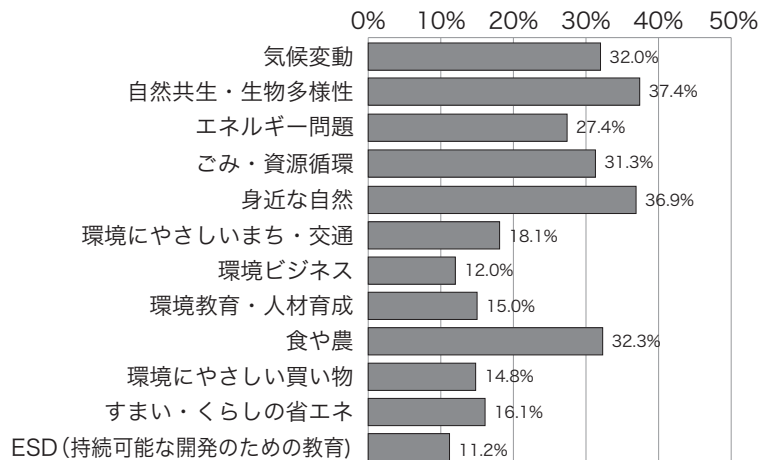
情報入手方法



●関心が高い分野

関心がある分野としては、「自然共生・生物多様性」、「身近な自然」、「食や農」、「気候変動」、「ごみ・資源循環」がいずれも3割以上を占めていました。上位3項目は2018年度とほぼ同様の順位となっていました。また、「気候変動」、「ごみ・資源循環」は新たに3割を超えました。特定の分野に興味を持つのではなく、全体的に関心を持っていることの表れと分析することもできます。2020年度は生物多様性の10年目となります。10年目としてふさわしい生物多様性に関する分野での取組を充実するとともに、関心が最も低いESDやSDGsに関して、名古屋市などがSDGs未来都市に選定されたことを踏まえ、推進するための取組を増やしていきたいと考えています。

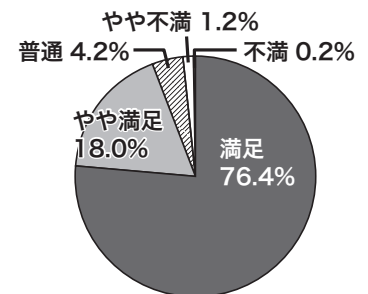
関心が高い環境分野



●講座に対する満足度

講座に対する満足度は「満足」、「やや満足」を含めて94.4%と高い評価をいただきました。講座企画者の努力と工夫の現れと思われます。

講座に対する満足度



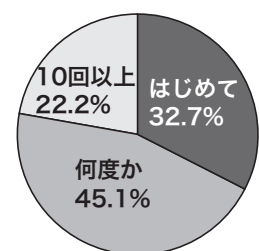
2. 小学生向け講座に関する分析結果

小学生の受講者529人に対するアンケートによると、受講者のほとんどが名古屋市内・愛知県内でした。初めて講座に参加した子どもが32.7%でしたが、同時に「何度か」、「10回以上」参加している子どもは合わせて67.3%と、講座へのリピート参加が定着していることがわかります。

講座の内容については、「楽しかった」と感じた子どもが全体の93.2%と非常に高いことが特徴的です。また、「また参加したいな」についても、○(したい)が91.7%と、全体として子どもの参加者が講座に非常に満足して、また参加したいと思っていることがわかります。「わかりやすさ」についての評価は2018年度より3.1ポイント上昇しており、講座企画者の成長が見られたのはよいことでした。

内容	○	△	×
楽しかったかな？	93.2%	5.7%	1.1%
わかりやすかったかな？	86.8%	11.5%	1.7%
また参加したいかな？	91.7%	7.2%	1.2%

講座への参加経験

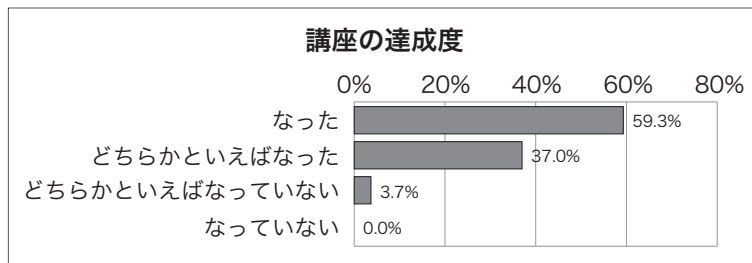


3. 講座主催団体に対するアンケートの分析結果

なごや環境大学の共育講座を企画運営していただいている NPO や企業などの講座企画者からのアンケート回答は、2019 年度は 81 団体で、2018 年度と同数でした。

●講座の達成度

講座の達成度については、企画団体の「なった」、「どちらかといえばなった」を含め 96.3%と、ほとんどの団体が主催者として講座全体に満足しています。



●講座の運営

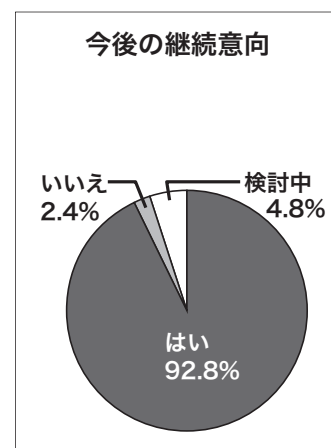
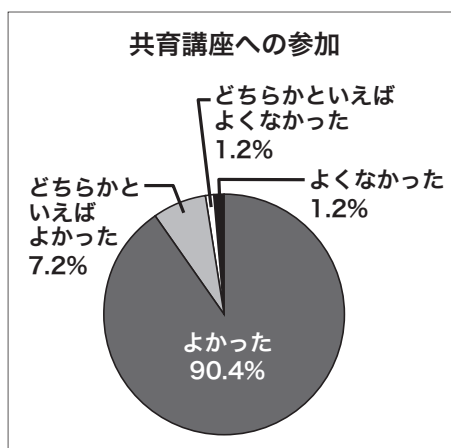
講座の運営に関して、表に示した 9 項目について、それぞれ 4 段階で自己評価していただきました。「スタッフ数」、「講座の時間配分」、「内容」、「手法」、「会場」、「準備」の項目で「十分」との回答が 5 割を超えていますが、「広報」、「参加者の人数」、「収入と収支のバランス」が「十分」との回答は 3 割にとどまっています。

2019 年度からアンケートに「広報」、「参加者の人数」を項目に加えました。その結果を見ると講座の広報が十分行われないと参加者の人数が低下する傾向が伺えます。広報に力を入れることが講座を成功させるポイントと考えられます。

	十分	ほぼ十分だった	少し足りなかった	足りなかった
①スタッフ数	61.0%	29.3%	8.5%	1.2%
②講座の時間配分	55.4%	37.4%	6.0%	1.2%
③内容	66.3%	31.3%	2.4%	0.0%
④手法	57.8%	38.6%	3.6%	0.0%
⑤会場	57.8%	41.0%	1.2%	0.0%
⑥準備	52.4%	39.3%	8.3%	0.0%
⑦広報	30.4%	49.4%	19.0%	1.3%
⑧参加者の人数	30.4%	44.3%	20.3%	5.1%
⑨収入と収支のバランス	29.0%	52.2%	13.0%	5.8%

●講座の改善・今後の展望

共育講座という参画のしかたについては、全体の 90.4%の団体が「よかった」と回答しており、このしくみが重要な意義を持っていることがわかります。また、今後の継続意向についても、92.8%の団体が継続したいと回答していました。



●まとめ

以上、2019 年度の各種アンケート結果の分析から、なごや環境大学が、NPO・市民活動団体、企業、行政、教育機関などと協働して役割分担している共育講座のしくみは、講座主催団体・受講者いずれからも高い評価を得ていることがわかります。しかし同時に、若い受講者の増加数が頭打ちになっているなど、新規受講者層の開拓がより必要となってきました。「ごみ非常事態宣言」から 20 年が経過し、また 2020 年度は COP10 から 10 年を迎えます。さらに、名古屋市をはじめ SDGs 未来都市に選定され、SDGs を達成するための市民活動を展開する必要が求められます。有意義な講座を継続的に発展させていくだけでなく、過去の経緯を知らない若い世代を中心とした講座の企画やユース世代による新たな取り組みを取り入れ、令和の時代にむけて受講者、講座企画者のニーズをしっかりと把握し、なごや環境大学の企画運営を進展させていきたいと思います。

共育講座

名古屋市内および近隣地域をキャンパスとして、『共に学び合い』『育ち合う』環境講座を「共育講座」と表現し、展開しています。講座の企画・運営は、趣旨に賛同した市民/市民団体や企業、教育機関、そして行政などが行い、企画を持ち寄り、協働で運営しています。

2019年度は、前期は61講座、後期は64講座、合わせての125講座を開催しました。(イベント等を除く)

各講座の詳細や団体情報については、なごや環境大学のウェブサイト内「アーカイブ」に掲載しています。

屋外(里山や水辺)も屋内(教室や工場)も「まちじゅうがキャンパス」です。

座学、フィールドワーク、討論、ワークショップ、調査・研究など様々な講座を実施しました。

※ 2月末～3月実施の講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い延期、中止が発生しました。



共育ゼミナール

『共育ゼミナール』は、開校以来進めてきた受講生を招く『共育講座』の発展の形として、2012年度から開始しています。「行動しやすくなるしくみづくり」の一つとして、調査・研究、社会実験、提言とりまとめなどを行っています。2019年度は、7団体が年間を通じて活動しました。

外来生物を採る会、食べる会

団体名 なごや外来種を考える会

環境に害を及ぼす外来生物が私達の身近にもいます。今年はザリガニやウシガエルなどの外来生物を捕獲する会と食べる会を開催しました。



都市の自然のモノサシづくり

団体名 モノサシなごや
(都市の自然のモノサシ研究会)

都市にとって、「健康な植生活」って何?身近な自然と、どうつきあえばイイの?そんなギモンやモヤモヤを、スッキリさせたい!日本庭園の生物多様性を探りました。

ユニバーサルデザインで自然のとびらを開こう

団体名 庄内緑地ネイチャア・
フィーリング自然観察会

障害の有無、年齢の差の壁を取り除き、だれでも自然のとびらを開いて、自然の楽しさを味わってもらうためのユニバーサルデザインのブック作成を目指して活動しました。

名古屋市近郊林のランドスケープデザインワークショップ

団体名 日本造園学会中部支部

森林環境税が創設されるなど、森と人との持続的なかわりを作っていくことが必要です。そのための空間づくりをワークショップを通じて提案するため活動しました。

おばあちゃんの知恵から学ぼう。 食から始まるシンプル暮らし術

団体名 養生キッチンふうど

食を中心にした「おばあちゃんの知恵」を私たちの暮らす地域(主に東海三県)から収集し、現代にあう形で伝えるため、ディスカッションや現地視察などを行いました。

堀川最上流の自然環境を調べる!

団体名 川ナビ歩こう会・
株式会社地域環境計画名古屋支社

名古屋の人々の暮らしを支え、親しまれてきた都市河川堀川。最上流部はどのような水辺環境が存在し、どんな生物が生息しているのかを継続して調査しています。

家庭の生ごみを元から減らし隊

団体名 生ごみ出さないプロジェクト

日本では、食品ロスが年間に約646万トンもあり、その半分は一般家庭から出されたものです。おいしく食べきるための情報を広く市民へ発信しました。

2019 年度

実行委員会主催事業・イベント出展の一覧

○野外体験 / □施設体験 / △屋内実習 / ●座学・鑑賞
 ＊一般／★子ども・親子対象 / ☆子どもOK
 ◆市民活動団体 / ▼企業・経済団体 / ▽行政機関等

■主催事業（市民団体・企業・行政と協働で実施）

講座種別	事業名	回数	延人数	協働先
○★	愛岐の里山たいけん隊 ～春・秋の里山にいこう！～	2回	26/28	協力：岐阜県多治見市諏訪町の皆さん ▽名古屋 市愛岐処分場
●	お買い物から SDGs を知る！ 「環境白書から実践へ」	1回	190	共催：▽環境省中部地方環境事務所▽愛知学院大 学名城公園キャンパス地域連携センター
○△ ☆	森イキ！テザリングプロジェ クト	8回	224	
○□ △●	ユース限定共育講座体験	-	26	
●	エコワカ会	1回	11	
●☆	TOYOTA SOCIAL FES!!	1回	170	主催：▼トヨタ自動車株式会社 共催：▼中日新聞社
●☆	サステナブル映画会 & トーク	1回	47	
●	第14回持続可能な明日をめざ すシンポジウム いのちつながる 街づくり担い手づくり～ひろが るエコアクション&エコライフ SDGs 報告会～	1回	180	共催：▼愛知県建設業協会、▼名古屋建設業協会、 ▼名古屋商工会議所、▽名古屋市
●	SDGsPARTY～ワカモノがワ カモノをつなぐ～	1回	11	
●	環境×防災イベント SDGs セミナー「なごやで考える防 災とグリーンインフラ」 「グリーンインフラとEco-DRR」パ ネル展示 『ガラスの地球を救え！』プロジェク ト 映画上映会	1回	112	共催：▽名古屋市▽公益財団法人名古屋まちづく り公社 後援：▽名古屋大学大学院環境学研究科附属持続 的共発展教育研究センター
●	なごやの環境平成史	4回	294	共催：▽名古屋市（第3回）▽愛知学院大学名 城公園キャンパス地域連携センター（第4 回）
●	SDGs 未来都市 NAGOYA の実 現を目指したワークショップ	1回	44	
●	SDGs にむけての協働型のし くみづくりに関する自治体ミー ティング	1回	33	



■イベント出展、その他

講座種別	事業名	日にち	延人数	備考
○	東山動植物園まつり（春・秋）	5/3・ 11/4	1390	主催：▽東山動植物園春まつり実行委員会/ ▽東山動植物園秋まつり実行委員会
△☆	WATSUKA MONO Village（環 境デーなごや 2019）出展	9/16	467	主催：環境デーなごや実行委員会
△	名古屋市消費生活フェア 2019 出展	11/9	201	主催：▽名古屋市消費生活フェア開催委員会
△	愛知淑徳大学CCCコラボメッセ 出展	12/8	28	主催：▽愛知淑徳大学コミュニティ・コラボ レーションセンター
●	あいち・なごや生物多様性 EXPO 分科会	1/12	112	主催：▽国連生物多様性の10年日本委員会(U NDB-J)、▽環境省、▽愛知県、 ▽名古屋市



2019 年度連携講座一覧

連携講座は、なごや環境大学の趣旨にご賛同いただいた企業・団体等が実施する講座・イベントです。
2019 年度は 25 講座が開催されました。

	開 催 日	講 座 名	実 施 者
1	2019 年 5 月 4 日	ふるさと親子自然観察会	名古屋自然観察会
2	2019 年 4 月 28 日 ～ 10 月 27 日 全 4 回	なごや自然教室	名古屋自然観察会
3	2019 年 4 月 28 日 全 2 回	間伐材で作る巣箱づくり	名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
4	2019 年 5 月 5 日	竹でつくる・水鉄砲を楽しむ教室	名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
5	2019 年 5 月 26 日、11 月 24 日	エコツアー ～渥美の海の生き生きのお魚を食べよう！～	環境ボランティアサークル亀の子隊
6	2019 年 5 月 17 日 ～ 11 月 23 日 全 8 回	天白・もりのフォーラム事業 「天白・自然とふれあい隊！」	天白・もりのフォーラム (天白区役所地域力推進室)
7	2019 年 5 月 18 日	祝・令和元年！有松あないびとの会 町並み歩き 「ふるさと有松を体感しよう」	有松あないびとの会
8	2019 年 7 月 1 日～9 月 15 日	第 14 回 環境絵画コンクール	パナソニック エコシステムズ株式会社
9	2019 年 7 月 27 日 ～ 2020 年 2 月 22 日 全 4 回	なごや森づくり講座	名古屋市緑政土木局
10	2019 年 8 月 6 日、8 月 7 日	夏休み水道・下水道実験教室	名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
11	2019 年 10 月 5 日、10 月 6 日	エビデンスを「つかう」を学ぶ 入門ワークショップ	認定 NPO 法人名古屋 NGO センター
12	2019 年 7 月 15 日	環境シゴト博	株式会社エステム
13	2019 年 8 月 31 日	空間コードから共創する 中川運河オープンディスカッション	都市コミュニケーション研究所
14	2019 年 10 月 19 日、11 月 16 日	令和元年 市民公開講座	名古屋市立大学
15	2019 年 9 月 29 日	SDGs × 水 水の商品化は水資源の問題解決につながるの？	NPO 法人 泉京・垂井
16	2019 年 11 月 16 日	消火栓なんでも体験防災講座	名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
17	2019 年 10 月 26 日	柴刈り大会	相生山緑地オアシスの森くらぶ
18	2019 年 10 月 8 日 ～ 2020 年 3 月 25 日 全 3 回	めざせ !! 水の環境復活	名古屋市環境局地域環境対策課
19	2019 年 11 月 4 日	出張版テクノロジーカフェ	公益社団法人日本技術士会中部本部・ 中部倫理委員会
20	2019 年 12 月 21 日 全 2 回	水の歴史資料館冬のクラフト教室	名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
21	2019 年 12 月 15 日	祝・日本遺産『有松ゼミナール VOL.7』	特定非営利活動法人コンソーシアム有松
22	2020 年 1 月 25 日	「海洋プラスチック問題の最前線」 “京大発ベンチャー企業ピリカの挑戦”	7R1Z ライオンズクラブ 5 クラブ
23	2019 年 11 月 9 日 ～ 2020 年 2 月 8 日 全 3 回	中小田井を『発見して、学んで、伝えよう』	中小田井発見プロジェクト kizuri
24	2020 年 2 月 15 日 全 2 回	間伐材で作る巣箱づくり	名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
25	2020 年 2 月 20 日	環境シゴト博 2021	環境シゴト博実行委員会

(実施順)

キャンパスネットワーク

ネットワークを広げ、環境教育の学びの場を増やすことを目的として、なごや環境大学の活動趣旨に賛同いただいた企業等が、所有あるいは管理している施設を「キャンパスネットワーク」として登録しています。

*キャンパスネットワーク登録方法や各施設の詳細については、なごや環境大学ウェブサイトで紹介されています。

	登録団体・企業	登録施設	所在地
1	株式会社七ツ平高原	中津川市ふれあい牧場	岐阜県中津川市落合字わらび平 1356-7
2	ブラザー工業株式会社 CSR&コミュニケーション部	ブラザーミュージアム	名古屋市瑞穂区塩入町 5 番 15 号
3	SMBC コンシューマーファイナンス株式会社	名古屋お客様サービスプラザ	名古屋市中村区名駅 4 丁目 1-3-2 階
4	チーム YMO ((公財)名古屋みどりの協会、(株)山田組、(株)オオバ)	農業文化園・戸田川緑地	名古屋市港区春田野二丁目 3204
5	中部電力株式会社	でんきの科学館	名古屋市中区栄 2 丁目 2 番 5 号

共育講座・ ゼミナール一覧 2019年度（前期）

共育ゼミナール

市民・市民団体等がテーマを掲げて年間を通して調査・研究、社会実験などを行います。活動成果を持ち寄って、「持続可能ななごや」実現のためにさまざまな提案等を行います。

講座番号 Z

なごや環境大学実行委員会 主催講座

「なごや環境大学」実行委員会が企画・運営する講座です。地球規模のテーマから、身近な地域の問題まで学ぶことができます。

講座番号 A

共育ゼミナール	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	Z-01	外来生物を捕る会、食べる会	なごや外来種を考える会	○		○	○	○
	Z-02	都市の自然のモノサシづくり	モノサシなごや (都市の自然のモノサシ研究会)				○	○
	Z-03	おばあちゃんの知恵から学ぼう。食から始まるシンプル暮らし術	養生キッチンふうど				○	○
	Z-04	ユニバーサルデザインで自然のとびらを開こう	庄内緑地 ネイチャー・フィーリング自然観察会	○	○	○	○	○
	Z-05	堀川最上流の自然環境を調べる！	川ナビ歩こう会・ 株式会社地域環境計画名古屋支社	○			○	○
	Z-06	名古屋市内郊林のランドスケープデザインワークショップ	日本造園学会中部支部				○	○
	Z-07	家庭の生ごみを元から減らし隊	生ごみ出さないプロジェクト				○	○

(エネルギー・気候変動) ①低炭素	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-01	楽しく わかりやすく 面白く 地球環境の将来を語り合うタベ	公益社団法人 日本技術士会中部本部愛知県支部				○	○
	C-01	環境エネルギー塾	中部電力株式会社				○	
	C-02	夏休み特別企画 東邦ガス親子環境講座	東邦ガス株式会社	○	○			
	C-03	第29回 環境フォーラム	株式会社 エステム	○	○	○	○	○
	C-04	高速道路の構造物や設備の寿命を延ばす秘密を知ろう	中日本高速道路株式会社 名古屋支社	○	○	○	○	○
	E-01	エネルギーから考える環境問題	北生涯学習センター					○
	E-02	進む地球温暖化、未来を守る選択	天白生涯学習センター	○	○	○	○	○

(生物多様性・気象・自然体験) ②自然共生	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	A-01	愛岐の里山たいけん隊～春の里山にようこそ！～	「なごや環境大学」実行委員会、 名古屋市長愛岐処分場		○	○		
	B-02	みて きいて かんじて！海上の森であそぼうの会	NPO みのむしックス	○				
	B-03	ニホンミツバチプロジェクト	東谷山ニホンミツバチプロジェクト 実行委員会	○		○	○	○
	B-04	山県市北部でまったり 2019 ～春・夏～	やまがたフットパス実行委員会	○	○	○	○	○
	B-05	子ども大人も樹木博士 ～色々な花々を探して学ぼう～	森林インストラクター会「愛」	○	○	○	○	○
	B-06	おばたの森遊び	なごや環境塾 どんぐりころころグループ	○				
	B-07	りす山の自然学校 なごやの野生ニホンリスと一緒に守りませんか？	守山リス研究会	○	○	○	○	○
	B-08	ビオトープと生物多様性（ビオトープ管理士試験対策）	ビオトープ・ネットワーク中部			○	○	○
	B-09	もりもり自然体験・大発見	かすがい里山自然楽校	○	○	○	○	○
	B-10	中津川の自然、まるごとお楽しみ（第10回）	認定特定非営利活動法人 恵那山みどりの会	○	○	○	○	○
	B-11	渥美の磯で珍しい生き物を探そう！	環境ボランティアサークル亀の子隊	○	○	○	○	○
	B-12	干潟の学校 ～藤前干潟を体験しよう！～	NPO法人藤前干潟を守る会	○	○	○	○	○
	B-13	親子で楽しむ ネイチャーゲーム！	なごやネイチャーゲームの会	○	○	○	○	○
	B-14	夜の東山の森で虫たちを灯火採集！	なごやの生き物調査の会	○	○	○	○	○
	B-15	大むかしの器を食卓に！～縄文土器をつくろう！～	evergreen～根っこを育む自然塾～	○	○	○	○	○
	B-16	美味しい！楽しい！美しい！魅力いっぱい親子森遊び	地球ハグ倶楽部	○	○	○		○
	B-17	むささびっ子の森たんけん隊	NPO チームばんどり	○	○			
	B-18	むささびっ子の森くらぶ	よりあい工房ばんどり	○				
	B-19	健康と環境～生物多様性の保存と利用・継承と未来～	環境カウンセラー岡本明子				○	○
	B-20	春日井築水の周りの自然と保全	かすがい東部丘陵自然観察会	○		○	○	○
	B-21	食、ものづくり、遊びの自然体験をしよう！	特定非営利活動法人えこども	○	○	○	○	○
	B-22	名古屋の花めぐり	スマイルフォレスト	○	○	○	○	○
	C-05	夏休みの自由研究！！～蟹江町で自然観察しよう！～	株式会社 加藤建設 自然環境課	○				

市民・市民団体が企画・運営する講座

「なごや環境大学」の趣旨に賛同した様々な市民・市民団体が企画・運営します。こどもにもわかりやすい講座から、詳しく学びたい人向けの講座までいろいろあります。

講座番号 B

企業・事業者が企画・運営する講座

環境にやさしい取り組みをしている企業・事業者が、自社の環境保全活動を紹介したり、施設見学を実施したりします。

講座番号 C

大学・学生等が企画・運営する講座を準備中です。(今期はありません)

講座番号 D

生涯学習センター等で実施する講座

各区生涯学習センターで、各館年間1講座を計画しています。区の特性に応じた内容や、全市的な視点から環境を考える内容など、様々な視点から講座を開催します。

講座番号 E

② 自然共生 (生物多様性・気象・自然体験)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	C-06	学ぼう！ウミガメ保護活動とそこから見える環境問題	中部土木株式会社	○	○	○	○	○
	C-07	田んぼ体験しよう！～昔ながらの農具を使って～	農業文化園・戸田川緑地 (戸田川緑地管理センター)	○	○	○	○	○
	C-08	きみもプラネタリアン！～こどもプラネタリアム解説～	アクティオ株式会社 名古屋営業所	○	○	○		
	C-09	青空遊園～堀川で川遊び！矢田川で夜間昆虫採集！～	川ナビ歩こう会、 株式会社地域環境計画名古屋支社	○	○	○	○	○
	C-10	『みどり』の効果を感じよう！	名古屋しみどりが丘公園	○	○	○	○	○
	E-03	【徳川園共催】昆虫王国 ～自然の中できらめく命～	東生涯学習センター	○				
	E-04	「外来種」はどこからやって来る？	中川生涯学習センター					○
	E-05	いろんな生き物に出会う夏 in 大高緑地	緑生涯学習センター	○	○			

③ 資源循環 (3R・ごみ問題・産業廃棄物)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-23	モッタイナイを家庭から～編む・織る・染める～	手あみ生涯学習くろーぶ				○	○
	C-11	お家の使われなくなった家電はどうなるの？	グリーンサイクル株式会社	○	○	○	○	○
	C-12	紙のリサイクル	愛知県古紙協同組合	○	○	○	○	○
	C-13	びん、缶、ペットボトルのリサイクル	愛知県再生資源団体連合会	○	○	○	○	○
	E-06	大切なものを長く使いごみ減量を意識してみませんか	名古屋市役所環境局減量推進室	○	○	○	○	○
	E-07	親子で体験！土曜日の午後に、環境のこと	港生涯学習センター	○				

④ 健康安全 (食・くらし・防災・安全)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-24	人と環境にやさしい エコお掃除教室	エビコンサル					○
	B-25	桑・蚕・絹について学ぼう！	特定非営利活動法人 マルベリークラブ中部	○		○	○	○
	B-26	ごきそテクノカフェ	名古屋工業大学 ごきそ技術士会	○		○	○	○
	B-27	食卓で感じる自然の恵み ～食の多様性を感じよう～	味覚教育 labo TASTE CLUB				○	○
	B-28	レイチェル・カーソンの想いから～SDGsを学ぶ	レイチェル・カーソン日本協会 東海フォーラム			○	○	○
	E-08	水の歴史資料館で学ぶ 名古屋の下水道と大雨・防災	名古屋市上下水道局 調査課 水の歴史資料館	○	○	○	○	○
	E-09	無理なく、無駄なく、地球にやさしく	昭和生涯学習センター					○

⑤ まちづくり (コンパクトシティ・交通・水)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-29	水辺の風景 堀川にかかる橋を描く	スマイルスケッチ				○	○
	C-14	なごやの建設屋さんエコアクションの現場を訪ねよう！	一般社団法人 名古屋建設業協会	○	○	○	○	○
	C-15	なごやがものづくりを得意としている訳	株式会社熊谷組 名古屋支店					○
	E-10	コンパクトシティ名古屋とは？～考えましょう、エコな生活～	中生涯学習センター					○

⑥ 国際協力・多文化共生	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-30	英語で聞こう！話そう！海外の文化と環境	特定非営利活動法人 ヘルピングハンスアンドハーツジャパン		○	○	○	○
	B-31	「食×国際交流」！世界の料理で環境を学ぼう！	ノートルモンド名古屋	○	○	○	○	
	C-16	NIC 地球市民教室 発見！体験！地球市民キャンパス	公益財団法人 名古屋国際センター			○		

⑦ 人材育成・スキルアップ (人材育成・スキルアップ)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	A-02	お買い物からSDGsを知る！「環境白書から実践へ」	「なごや環境大学」実行委員会、環境省中部地方環境事務所、愛知学院大学名城公園キャンパス地域連携センター					○
	B-32	たのしい「折り紙」で「資源」の活用を学ぼう！	ORIGAMI 倶楽部	○	○	○	○	○
	B-33	テクノロジーカフェ	公益社団法人日本技術士会中部本部・ 公設倫理委員会	○	○	○	○	○
	B-34	都会人の「農」体験塾！～田んぼ、畑で無農薬栽培	NPO法人日進野菜塾			○	○	○
	C-17	受講者と共につくり、学び合う体験講座 ～おかげさまで、15年連続開講中！～	株式会社山田組	○	○	○	○	○

共育講座・ ゼミナール一覧 2019年度（後期）

共育ゼミナール

市民・市民団体等がテーマを掲げて年間を通して調査・研究、社会実験などを行います。活動成果を持ち寄って、「持続可能ななごや」実現のためにさまざまな提案等を行います。

講座番号 Z

なごや環境大学実行委員会 主催講座

「なごや環境大学」実行委員会が企画・運営する講座です。地球規模のテーマから、身近な地域の問題まで学ぶことができます。

講座番号 A

共育ゼミナール	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	Z-01	外来生物を捕る会、食べる会	なごや外来種を考える会	○		○	○	○
	Z-02	都市の自然のモノサシづくり	モノサシなごや (都市の自然のモノサシ研究会)				○	○
	Z-03	おばあちゃんの知恵から学ぼう。食から始まるシンプル暮らし術	養生キッチンふうど				○	○
	Z-04	ユニバーサルデザインで自然のとびらを開こう	庄内緑地 ネイチャ・フィーリング自然観察会	○	○	○	○	○
	Z-05	堀川最上流の自然環境を調べる！	川ナビ歩こう会・ 株式会社地域環境計画名古屋支社	○			○	○
	Z-06	名古屋市近郊林のランドスケープデザインワークショップ	日本造園学会中部支部				○	○
	Z-07	家庭の生ごみを元から減らし隊	生ごみ出さないプロジェクト				○	○
① 低炭素 (エネルギー・気候変動)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-35	一級建築士から学ぶ！暮らし方の工夫で快適と省エネルギーを実現	カムハウスラボ中部ネットワーク			○	○	○
	C-18	春休み特別企画 東邦ガス親子環境講座	東邦ガス株式会社 CSR 環境部／ 運営：(一社)環境創造研究センター	○	○			
	C-19	生み出せ！地球に優しいエネルギー！水に浮かぶ風力発電をつくろう！！	戸田建設株式会社 名古屋支店	○	○			
	D-01	2019 年度次世代エネルギーワークショップ名古屋（学生編）	名古屋市立大学大学院経済学研究科 (次世代エネルギーワークショップ推進委員会)				○	
	E-11	【公開講座】CO2を回収して、ストップ！温暖化	中村生涯学習センター					○
	E-12	【公開講座】千年先にも持続できる社会へ	瑞穂生涯学習センター					○
	E-13	森林破壊が雨を減らす～昨今の気候変動との関係は？～	千種生涯学習センター					○
	E-14	エコ事業所から学ぶ環境配慮の取り組み	名古屋市環境局 低炭素都市推進課					○
② 自然共生 (生物多様性・気象・自然体験)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	A-03	愛岐の里山たいけん隊～秋の里山に行こう！～	「なごや環境大学」実行委員会、名古屋市 愛岐処分場、名古屋市環境学習センター		○	○		
	B-36	おさんぽビュッフェ	ネイチャートライアングル	○	○	○	○	○
	B-37	森で見つけ！自然と育むおやこの発見・創造プログラム	劇団森のパレット	○	○			
	B-38	おばたの森遊び	なごや環境塾 どんぐりころころグループ	○				
	B-39	中津川の自然、まるごとお楽しみ（第11回）	認定特定非営利活動法人 恵那山みどりの会	○	○	○	○	○
	B-40	むささびっ子の森たんけん隊	NPO チームばんどり	○	○			
	B-41	むささびっ子の森くらぶ	よりあい工房ばんどり	○				
	B-42	もりもり自然体験・大発見	かすがい里山自然楽校	○	○	○	○	○
	B-43	視点を変えて「なごやの環境」古墳の上から地形と災害	川ナビ歩こう会	○		○	○	○
	B-44	りす山の自然学校 なごやの野生ニホンリスをいっしょに守りませんか？	守山リス研究会	○	○	○	○	○
	B-45	リス山あそび「季節を感じる自然体験をしよう！」	特定非営利活動法人 えこども	○	○	○	○	○
	B-46	干潟の学校 ～藤前干潟でいろんなことしましょ！～	NPO 法人藤前干潟を守る会	○	○	○	○	○
	B-47	ももなも耕せプロジェクト「いのこしの畑で綿とひとをつくらう！」	特定非営利活動法人 芸術の広場ももなも	○	○	○	○	○
	B-48	大人が楽しく学ぶ「身近な自然」～木の実編～	特定非営利活動法人 東海自然学園					○
	B-49	桑の恵みを知ろう！	特定非営利活動法人 マルベリークラブ中部	○		○	○	○
	B-50	『セントレアまるごとウォッチング2019』環境配慮と水際対策を学ぶ	環境カウンセラー 岡本明子				○	○
	B-51	みて きいて かんじて！海上の森であそぼうの会	NPO みのむしックス	○				
	B-52	春日井築水の周りの自然と保全	かすがい東部丘陵自然観察会	○	○	○	○	○
	B-53	むしごぶメガネで森たんけん	りとらば	○	○			
	B-54	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び、働く	NPO 法人 「みたけ・500万人の木曽川水トラスト」	○		○	○	○
	B-55	鳩吹山と寂光院から眺める愛知用水～木曽川水系～	スマイルフォレスト	○	○	○	○	○
	B-56	山県市北部でまったり 2019 ～秋・冬～	やまがたフットパス実行委員会	○	○	○	○	○
	B-57	蛇口の向こう～水源の森へ！	公益社団法人 日本山岳会東海支部 猿投の森づくりの会	○	○	○	○	○

市民・市民団体が企画・運営する講座

「なごや環境大学」の趣旨に賛同した様々な市民・市民団体が企画・運営します。子どもにもわかりやすい講座から、詳しく学びたい人向けの講座までいろいろあります。 講座番号 B

企業・事業者が企画・運営する講座

環境にやさしい取り組みをしている企業・事業者が、自社の環境保全活動を紹介したり、施設見学を実施したりします。 講座番号 C

大学等が企画・運営する講座

大学等が企画・運営する講座です。 講座番号 D

生涯学習センター等で実施する講座

各区生涯学習センターで、各館年間1講座を計画しています。区の特性に合った内容や、全市的な視点から環境を考える内容など、様々な視点から講座を開催します。 講座番号 E

②自然共生 (気象・自然体験・生物多様性)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	C-20	竹マスター講座 ～手入れと竹工作～	名古屋みどりが丘公園(指定管理:みどりの風グループ 共同事業体代表(公社)名古屋みどりの協会)				○	○
	C-21	バードウォッチングに挑戦!! ～蟹江町にやってくるカモを観察♪～	株式会社 加藤建設 自然環境課	○				
	E-15	自然を感じる、なごやの公園・緑地の魅力	名東生涯学習センター					○
	E-16	【名古屋環境科学調査センター共催】科学で学ぶ名古屋の環境	南生涯学習センター					○
	E-17	実験!体験!かんきょうラボ	名古屋環境科学調査センター			○	○	○
③資源循環 (3R・ごみ問題・産業廃棄物)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-58	ソーネおおぞねで学ぶ「身近なエコライフ」	特定非営利活動法人わっぱの会	○			○	○
	B-59	オシニンジャーXと一緒に水を救え!	にしお映画製作実行委員会	○	○	○		
	B-60	今こそ脱プラ!これからの「循環型社会」を考える	なごや環境サポーターネットワーク	○		○	○	○
	B-61	～もつたないを家庭から～編む・織る・染める～	手あみ生涯学習ぐるーぷ&つながれと3R				○	○
	B-62	「持続可能な消費と生産」を考える旅 バスで「めぐる」リユースの「輪」	リユースプロジェクト「めぐる」	○	○	○	○	○
	C-22	「なごやリサイクル探検隊(環境特区昭和町を巡る旅)」	グリーンサイクル株式会社(代表企業) 中部リサイクル株式会社(窓口) 株式会社アビツ	○	○	○	○	○
	E-18	海洋プラスチック問題に関するお話～小さなゴミが与える大きな影響～	西生涯学習センター	○	○	○	○	○
	E-19	家庭でできる環境学習～食品ロスはもつたない～	名古屋市教育委員会 生涯学習課(イーブルなごや)					○
	E-20	大切なものを長く使いごみ減量を意識してみませんか	名古屋市環境局減量推進室	○	○	○	○	○
④健康安全 (食・暮らし・防災・安全)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-63	地元のお米を食べよう!伝統食を知り、健康な食生活を。	米米(マイマイ)					○
	B-64	地域の防災リーダーのための、災害とボランティアに関する勉強会	災害ボランティアちくさネットワーク	○	○	○	○	○
	B-65	ごきそテクノカフェ	名古屋工業大学 ごきそ技術士会	○		○	○	○
	B-66	食べ物は自然の恵み[美味しい!楽しい!美しい!]親子料理教室	地球ハグ倶楽部	○	○	○		
	C-23	なごやの暮らしとシミズのごと part 5(初の工事中の現場見学です!)	清水建設株式会社 名古屋支店	○	○	○	○	○
	E-21	企業の取り組みから学ぶ環境保全への取り組み 一私たちにできることは?ー	守山生涯学習センター					○
	E-22	水の歴史資料館で学ぶ 安心・安全な名古屋の水道	名古屋上下水道局 調査課 水の歴史資料館	○	○	○	○	○
⑤まちづくり (コンパクトシティ・交通・水)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-67	知らなかった名古屋…歴史ある街並みを描こう	スマイルスケッチ				○	○
	C-24	聞いて役立つ環境と不動産の話	公益社団法人 愛知県不動産鑑定士協会				○	○
	E-23	きれいな水を未来へ～水環境の保全について学ぶ～	熱田生涯学習センター					○
⑥国際協力・多文化共生	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	B-68	英語で聞こう!話そう!海外の文化と環境	特定非営利活動法人ヘルピングハンズ アンドハーツジャパン			○	○	○
	B-69	「食×国際交流」!世界の料理で環境を学ぼう♪	ノートルモンド名古屋	○	○	○	○	
	B-70	楽しく学ぶフェアトレード～WS、チョコ作り、カレー作り～	名古屋フェアトレード・タウンにしよう会	○	○	○	○	○
⑦人材育成・スキルアップ (人材育成・スキルアップ)	講座番号	講座名	企画・運営	親子	小学生	中学生	大学生	一般
	A-04	なごやの環境平成史	「なごや環境大学」実行委員会					○
	B-71	あなたも地球エコ防衛隊になろう!	地球エコ防衛隊	○				○
	B-72	社会と土木の「話の泉」	C E 技術の会			○	○	○
	B-73	「楽しく」「わかりやすく」「面白く」地球環境の将来を語り合うタベ	公益社団法人 日本技術士会中部本部愛知県支部				○	○
	B-74	テクノロジーカフェ	公益社団法人 日本技術士会中部本部・中部倫理委員会	○	○	○	○	○
	B-75	都会人の「農」体験塾!～米、イモ、大豆の収穫と「手前みそ」づくり	NPO法人日進野菜塾			○	○	○
	B-76	レイチェル・カーソンと海	レイチェル・カーソン日本協会 東海フォーラム			○	○	○
	C-25	環境系企業と一緒にゴミ拾い!環境保全を身近に、想いを馳せよう。	環境シゴト博実行委員会	○	○	○	○	○



実行委員会事業 ～1年の歩み

市民、市民団体、企業、教育機関、行政と協働した多くの講座やイベントを紹介します。



愛岐の里山たいけん隊(春・秋)

春 5/18、秋 11/18 全2回 延べ 52 名参加

名古屋市愛岐処分場内の自然豊かな里山で行う小中学生対象の講座。地元の方に教えてもらいながら行う自然体験と処分場の施設や埋立地の見学で、楽しみながら自然共生や自分たちの生活と処分場とのつながりを学びました。

- 共催：名古屋市愛岐処分場、名古屋市環境学習センター
- 協力：岐阜県多治見市諏訪町のみなさん



5/18
田植えに
挑戦中

名古屋市東山動植物園 春・秋まつり

春 5/3、秋 11/4 1,390 名ブース来場

東山動植物園の春と秋の両まつりにブース出展し、パネル展示やガイドブックの配布を通じて、なごや環境大学を PR しました。

- 共催：名古屋市環境学習センター



ブースの様子



デザイン立案した学生の皆さん

ごみ非常事態宣言 20 周年記念 オリジナルエコバッグプロジェクト

販売期間 6/7 ～ 6/10

中日ドラゴンズ、名古屋外国語大学との協働企画として、レジ袋（プラスチック）削減啓発のためのオリジナルエコバッグを製作・販売。1000 枚のバッグは販売開始から 3 日で完売しました。販売利益は海洋保全に役立てていただけるよう「名古屋港水族館振興基金」に寄付しました。

- 主催：中日ドラゴンズ（中日新聞社）、「なごや環境大学」実行委員会
- 企画・デザイン立案：名古屋外国語大学横山ゼミナール



第 14 回持続可能な明日をめざすシンポジウム いのちつながる街づくり担い手づくり ～ひろがるエコアクション&エコライフ SDGs 報告会～

10/31 180 名参加

「いのちつながる街づくり・担い手づくり」をテーマに産学官民一体となった資源循環型の地域街づくりの取組みの報告会を開催いたしました。

- 企画責任団体：一般社団法人愛知県建設業協会
- 共催：なごや環境大学、名古屋市、名古屋市商工会議所、一般社団法人名古屋建設業協会、東日本建設業保証株式会社
- 後援：国土交通省中部地方整備局、環境省中部地方環境事務所、愛知県、環境パートナーシップ・CLUB、中日新聞社



名古屋市公館にて



ユースチーム員はじめ企画運営した学生の皆さん

環境デーなごや 2019 中央行事参画 WATSUKA(わっか) MONO(もの) Village(ビレッジ)

企画会議～ 延べ 66 名の学生参加 9/14 イベント当日 467 名来場

環境デーなごや 2019 中央行事に「WATSUKA MONO Village(ワッカモノビレッジ)」として参画し、出展ブースの企画運営を展開しました。参加した学生たちは、内容の企画を通じて環境問題に対する知識を深め、当日も多くの来場者へ発信しました。

【参加学生の所属】愛知学院大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、名古屋大学、南山大学、名城大学



体験講座の様子

ユース限定 共育講座体験

7月～2020年3月 学生及び社会人ユース 18名参加

大学生らユース層の共育講座参加の促進、並びに共育講座へユース層の意見を取り入れることを目的とし、学生及び社会人ユースが興味関心のある共育講座を体験しました。

【参加学生及び社会人ユースの所属】愛知学院大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、名古屋大学、名古屋外国語大学、名城大学、飛騨五木株式会社、名古屋市



TOYOTA SOCIAL FES !!

9/29 150名

全国各地で開催している市民参加による環境保全プログラム。愛知では、愛知の自然を「知って愛そう」プロジェクトと題し、シンクロナイズドスィミング元日本代表の松村亜矢子さんによる講演の後、藤前干潟の清掃活動を行いました。

- 主催：中日新聞社 共催：「なごや環境大学」実行委員会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会
- 協力：名古屋市南陽工場 協賛：TOYOTA SOCIAL FES!!



藤前干潟にて

サスティナブル映画会&トーク

10/26 47名

共育ゼミナール活動紹介をメインに、ドキュメンタリー映画「みつばちと地球とわたし」の上映を組み合わせ実施。アフタートークでは、4団体の活動発表と共に、まわりを巻き込む行動のコツ、これからのなごやの環境について等をディスカッションしました。

【共育ゼミナール活動発表団体】
川ナビ歩こう会・(株)地域環境計画、都市の自然のモノサシ研究会、なごや外来種を考える会、生ごみ出さないプロジェクト



トークの様子

環境×防災イベント

11/16 (パネル展示は11/6～11/16) 112名

同日開催イベント「イザ!カエルキャラバン! in かなやま」(主催：災害に強い金山まちづくり実行委員会)との連携開催。「環境視点から取り組む防災」をキーワードに、香坂 玲氏(名古屋大学大学院教授)によるセミナーや「グリーンインフラとEco-DRR」パネル展示、地球温暖化の意識啓発アニメの上映を行いました。

- 共催：名古屋市、公益財団法人名古屋まちづくり公社
- 後援：名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター



SDGs セミナー「なごやで考える防災とグリーンインフラ」



パネル展示



共育講座企画者説明会

9/4、9/7、2/26 全3回

2019 後期 52名・
2020 前期 29名参加 (1回中止)

共育講座実施に向けての心得等を説明。団体同士の顔合わせの場も兼ねています。



9/4 説明会の様子



あいち・なごや 生物多様性 EXPO 分科会 ～多様な主体の連携～

1/12 分科会 112名

生物多様性 COP10 から 10 年。あいちターゲットの目標年次である 2020 年をむかえ、この 10 年間のふりかえりを行うイベントが開催されました。

なごや環境大学も協働のプラットフォームとして参画し、ともに「生物多様性 2020 あいち・なごや宣言」を作成しました。

- 主催：国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)、環境省、愛知県、名古屋市
- 共催：生物多様性自治体ネットワーク



1/12 分科会の様子

持続可能な社会づくり～SDGs 達成を目指して～

なごや環境大学の第4期ビジョンの柱の一つである「持続可能な社会づくりに関わる知識・情報、地域の情報」の提供を目指し、多様な主体と協働して、講座やイベントを実施しました。SDGs 達成を意識して取り組んだ2019年度の環境大学の講座・イベント。ピックアップしてご紹介します。

主催事業・主催講座

お買い物から SDGs を知る！ 「環境白書から実践へ」

7月9日（火）190名参加

【会場】愛知学院大学 名城公園キャンパスアガルスホール

【講師】五十嵐祐介氏（環境省大臣官房環境計画課課長補佐）

【ゲストスピーカー】堀尾速人氏（仲建設株式会社代表取締役）、鶴田紀子氏（株式会社鶴田商会 Eco-Branch）、後藤裕一氏（株式会社大醐 代表取締役）

●共催：環境省中部地方環境事務所、愛知学院大学名城公園キャンパス地域連携センター

環境白書を元に、世界・日本の動向を学びつつ、SDGs の基礎や、「お買い物」をキーワードに地元中小企業から実際の取り組みなどについて発表をお聞きました。企業の方にも多くご参加いただき、「仕事の参考になった」との声もいただきました。



なごやの環境平成史

11月30日～2020年2月8日（全4回）294名参加

【会場】名古屋市環境学習センターエコパルなごや バーチャルスタジオ（第1、2回）、名古屋国際会議場1号館133（第3回）、愛知学院大学 名城公園キャンパスアガルスホール（第4回）

【セミナー講師】大場和生氏（中部大学非常勤講師）、浅井久美氏（環境カウンセラー）、杉山範子氏（名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター特任准教授）、涌井士郎氏（「なごや環境大学」学長、愛知学院大学経済学部特任教授）

●共催：名古屋市（第3回）、愛知学院大学名城公園キャンパス地域連携センター（第4回）

平成から令和へ改元された本年。本講座では、「大気測定と化学物質（第1回）」に始まり、「資源循環と市民協働（第2回）」、「地球温暖化と緩和適応策（第3回）」、「生物多様性とSDGs（第4回）」と、様々な角度から、取り組みを振り返り、持続可能な未来に向けて環境の視点を創り出しました。



SDGs に向けての協働型のしくみづくりに関する 自治体ミーティング

2020年1月10日（金）22自治体33名参加

【会場】名古屋市環境学習センターエコパルなごや

【コーディネーター】千頭 聡（「なごや環境大学」アドバイザリーボード、日本福祉大学執行役員、藤前干潟協議会 会長）、松本イズミ（「なごや環境大学」実行委員会実行委員、NPO フィトラボ代表）

「SDGs を総合計画や環境基本計画にどう取り込むのか」「多様なセクターと協働型で実施する方法は？」など、課題を共有しながら意見交換を図るとともに、情報交換のネットワーク作りを目的に実施しました。すでに取り組みをはじめている自治体の事例発表ののち、グループに分かれて悩みや課題を共有し、気づき等をディスカッションしました。共通の課題をもつ同じ立場の方々が集まって率直に情報交換できる機会となりました。



ユース事業

エコワカ会

9月22日(日) 学生及び社会人ユース 11名参加

【会場】名城大学名古屋ドーム前キャンパス(北館 1F ムーガーデンテラス)

【参加学生及び社会人ユースの所属】

愛知大学、愛知学院大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、南山大学、名城大学、飛騨五木株式会社

環境について語り合うワカモノだけのコミュニティ「エコワカ会」を開催しました。ユースチームに所属する学生及び社会人ユースが、環境に興味がある若者を集め、意見交換や情報交流の場をコーディネートし、若者同士のネットワークを広げました。また、環境というテーマを媒体とし、「若者」と「若者」をつなぐ「輪」となっていくイメージを表現したシンボルマークも作成しました。



SDGsPARTY ～ワカモノがワカモノをつなぐ～

11月9日(土) 学生及び社会人ユース 11名参加

【参加学生及び社会人ユースの所属】

愛知大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、名城大学、飛騨五木株式会社、株式会社ナックプランニング

「若者が若者に発信する」ため主催事業「SDGsPARTY」を開催しました。SDGsに料理やカードゲームといった楽しみ要素を織り交ぜ、若者同士が交流しながら環境問題について考える場を作り、SDGsや環境学習の必要性を参加した若者に訴えかけました。



森林プロジェクト事業

森イキ！デザインプロジェクト

8月3日(土)～2020年1月18日(土)

延べ224名参加(設楽プログラム全5回161名、なごやサテライトプログラム全3回63名)

【会場】設楽町神田区森林、神田ふれあいセンター、エコパルなごや

【プログラムディレクター】杉野実(「なごや環境大学」実行委員会実行委員、M¹ Project デザインプロデューサー)

【協力】設楽町神田区、特定非営利活動法人三遠南信 Maida 倶楽部、田口森林組合、奥三河木材協同組合

森林での活動による環境保全とくらしをテーマとした新プロジェクト。地域や森林のことを知り、体験しながら森林の課題整理や魅力を発見した参加者が、アイデアを出し合い、森林活用のアクションまで「デザイン」していききました。

基本プログラムとして、設楽町神田地区にある一つの森を実験場に、参加メンバーは山道から川べりまでの小道づくりを行い、イベントの企画や森を活かす持続的な仕組みづくりまで発想を広げた提案をまとめました。また、なごやでもより多くの人が森について学べるよう「サテライトプログラム」を企画。神田産の木材を活用したワークショップなどを実施しました。

事業の様子や参加者のデザイン提案をまとめた活動報告書を発行し、専用サイトでも情報を発信。プロジェクトの「見える化」を意識して進行しました。



全体総括 2019 年度の総括

【2019 年度 活動方針】

- 多様な分野の人々が情報を共有し、問題意識や専門性を生かした議論を行い、「誰もが参加可能な、実行を伴う事業」の実現を目指します。
- これまで築いた「つながり」を生かし、多様な主体の持つ「なごやを動かそう」という意欲を行動に結びつける開かれた大学（事業）を目指します。
- 策定された第4期ビジョンをもとに、より開かれた新たな「なごや環境大学」の実現を目指します。

【重点取り組み事項】

- 1 「持続可能な社会づくりに関わる知識・情報、地域の情報」を提供します。
 - ・主催講座・主催事業の企画・実施（P.20 参照）
 - ・3月に予定していた主催講座、主催事業は新型コロナウイルスの感染防止のため次年度に延期した。
- 2 人材・組織のデータベース、双方向コミュニケーションを可能にする情報媒体を活用し、多様な主体が情報・資源等を持ち寄り、意見を出し合う場・協働できる場をつくり出します。
 - ・リソースマッチングを目的に共育講座・ゼミナール団体の情報を集約した『エコパートナーズデータベース』の公開に向け準備中。
 - ・各チームと連動した広報活動を実施した（東海ラジオ・環境情報誌 Risa での発信）。
 - ・「ごみ非常事態宣言」20周年を記念して、中日新聞と名古屋外国語大学との協働によりオリジナルエコバッグを製作・販売し、レジ袋削減の取組を啓発した。海洋プラスチック削減、海の保全につながることから、販売利益を「名古屋港水族館振興基金」に寄付をした。
- 3 協働による社会実験など、多様な主体が自発的、主体的に行動する機会や場を提供します。
 - ・講座企画者の会場確保を支援するため、企業の保有する施設を貸し出す「キャンパスネッ

トワーク登録制度」を2018年度から実施し、これまでに5施設を登録した。しかし、登録による優先予約のメリットがないなど課題もあることから今後調整が必要である。

4 持続可能な都市を担う「次世代育成」、「新規市民参加者」のために、各種事業の開発・充実に取り組む。

- ・環境への関心が低い若者を引き付けるため、「若者が若者に発信する」主催事業の検討・実施し、関わりあう世代の広がりを目指している。
- ・ガイドブックをより多くの若者にも手にとってもらえるよう、学生や若手デザイナー対象の表紙コンペティションを後期から実施している。

5 目標達成のための定量的（定性的）な評価指標と評価方法を導入します。

- ・外部に対してのなごや環境大学の評価指標、評価方法、達成目標は今後引き続き議論が必要である。

6 なごや環境大学がより持続的に発展するために、外部資金導入も図り、新たな組織体制・事業展開を目指します。

- ・ブランディングの議論も踏まえ、企業等から協力金・寄付金などを受けていくための企業

向け広報ツールを検討している。

7 持続可能な社会づくりのための特別プロジェクトを計画・実施すると同時に、参加する市民や主体によるSDGsの達成に貢献します。

- ・名古屋市が昨年7月1日に内閣府から「SDGs未来都市」に選定されたことから、なごや環境大学としてもSDGsを展開する活動に取り組んでいく。（「なごや環境大学SDGs未来創造クラブ」の設立と、環境と経済・社会の統合的向上を図る2つのプロジェクト「まちづくり」と「人づくり」の推進。）
- ・森林プロジェクトとして「森イキ！デザインプロジェクト」を設楽町神田地区でスタートさせた。都市部にはないこの地区の魅力を発信することにより、事業終了後も活性化につながる森林の持続可能な活用をデザインした成果発表を予定している。

8 「平成」30年間を環境の視点から見つめ直し、「令和」における環境を考える視点を創り出します。

- ・地球規模での環境が変化していく中、なごやの環境が平成の30年間でどのように変化を遂げ、取り組んできたか、様々な視点から見つめ直し、持続可能な未来に向け令和における環境を考える主催講座「なごやの環境平成史」（全4回）を実施した。

活動サポートチーム報告 2019 年度の総括

【2019 年度 活動方針】

- 共育講座・共育ゼミナールの充実を図る。
- 共育講座・共育ゼミナール団体の交流の活性化を図る。

【重点取り組み事項】

- 1 共育講座の新規（フレッシュ）講座企画者の増強
 - ・なごや環境大学に新たに参画していただける企画団体を増やすためのアプローチのため、共育講座公募リーフレットを800部増刷し、共育講座企画団体等に配付。
 - 一般枠 フレッシュ団体の応募8団体（2018年度）→13団体（2019年度）

2 共育講座・共育ゼミナールのあり方の検討

- ・2018年度に見直し、2019年前期の公募時期より実施している募集要項・審査基準の検証を行い、一部修正を行った。共育ゼミナールのあり方は当面現状通りとすることにしたが、共育講座は、2020年度前期に、テーマ枠「（生物）多様性のめぐみ」を設定し、市民団体に限らず企業等からも広く募集した。しかし、応募された企画は一般枠での企画との間に明確な違いがないなど、テーマ枠設定の意図に該当する応募はなかった。

3 団体や活動の見える化とスキルアップのサポート

- ・リソースマッチングを目的として構築した共育講座・ゼミナール団体データベースの有効な活用を検討し、2020年度初頭の公開を目指している。
- ・ゼミナール団体の立体的な見える化として「活動発表」の場を提供。10月26日サステイナブル映画会&トークとして、生物多様性をメインテーマとした名古屋市の養蜂家を中心に取り上げたドキュメンタリー映画「みつばちと地球とわたし」上映と共育ゼミナール活動紹介を組み合わせた活動発表を実施。
- ・2018年度好評であった「スキルアップ講座」は、2月26日に「名古屋市の環境計画から見たなごや環境大学とは？」というタイトルで実施し、講座企画者が活動を展開する上での意識づけを行った（2月29日（土曜）も予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止）。

企画チーム報告 2019 年度の総括

【2019 年度 活動方針】

＜以下、すべての方針、事業において SDGs を念頭に置く＞

- なごや環境大学の存在感と求心力をより高める。
- より学びを深くし、インフルエンサーになっていく人々を培う。
- いわゆる環境無関心層や新規層を含め、多様な主体を集める。

【重点取り組み事項】

1 モデルとなる事業（講座）や多くの人が参加できる企画を検討、実施

- ・「愛岐の里山たいけん隊」の実施。こどもたち向けに毎年春と秋に開催し、約 10 年間ニーズを持ち続け愛されている講座。長く続けてきたからこそできるカリキュラムの更なる充実や改善点などを盛り込み、モデルケースとしての蓄積を重ねた。
- ・「SDGs にむけての協働型のしくみづくりに関する自治体ミーティング」を開催。22 自治体 33 名が参加し、SDGs を総合計画や環境基本計画にどう取り込み実施するかを検討。自治体同士のネットワークの構築にもつながった。
- ・多くの幅広い世代の人が気軽に参加でき、時流を意識した企画として、ウォーキングイベント「SDGs ハッピーウォーク」を企画調整。街のスポットを絡めた SDGs ポイントをコース内に設置し、理解促進を促す。新たな参加者層の開拓だけでなく、中・高・大学や企業が参画しやすいモデル事業として構築。タレント・スポーツ選手等を起用することにより話題性、ソーシャルインパクト、求心力を高めていく。(3/28 実施予定だったが、新型コロナウイルス対策により次年度に延期)

2 しっかりした環境情報や最新の情報を提供する機会をつくる

- ・「お買い物から SDGs を知る！～環境白書から実践へ～」を開催。環境省中部地方環境事務所と協定先の愛知学院大学との共催。しっかりと環境情報と最新トピックの提供を行うことができた。中小企業事業者の事例などをメインにおいたとともに各種団体との連携を通じた情報発信をしたことによって参加者も企業関係者が多くみられ、新たな層へのアプローチにつながり、当初 100 名の定員を大幅に越え、約 200 名の参加となった。
- ・「なごやの環境平成史」を開催。なごやの環境は平成の時代にどのような変化を遂げたのか、令和の時代にどうつなげるかを名古屋市の環境基本計画の 4 つの柱をテーマに連続講座として開催。多様な角度から総合的に持続可能な社会を考える人づくりにつなげた。(全 4 回開催、延べ 294 名参加)

3 多様なテーマを取り上げ、間口を広げた事業（講座）の展開を図る

- ・実行委員やチーム員のつながりを活かし、世界 80 カ国 145 都市が参加したユネスコ創造都市ネットワーク年次総会において、なごや環境大学のリーフレットを設置。SDGs の実施取組主体としての世界にアピールし存在感を高めた。
- ・「持続可能な明日をめざすシンポジウム」を共催。建設業を含めた多様な主体が集い、街と暮らしを考える機会となった。
- ・「防災」「まちづくり」を大枠とし「グリーンインフラ」をテーマにとりあげたセミナー「なごやで考える防災とグリーンインフラ」を開催。併せて『ガラスの地球を救え！』プロジェクト映画上映会、グリーンインフラの角度から共育講座を紹介するパネル展示を開催。(公財)名古屋まちづくり公社との共催。(112 名参加)
- ・国立環境研究所の五箇公一氏を講師にセミナー「生物多様性とサブカルチャーの世界」を企画調整。サブカルチャーという新たなテーマを取り上げることで受講者層やステークホルダーの間口の広がるプランを立案。(3/7 実施予定だったが、新型コロナウイルス対策により次年度に延期)

広報チーム報告 2019 年度の総括

【2019 年度 活動方針】

- 幹事会にて決定された「なごや環境大学のブランディングに関するまとめ」をもとに、ブランディングコンセプトに沿ったブランディングアクション＝中長期を見据えた広報戦略の検討と整理および一部実施。

【重点取り組み事項】

1 ブランディング戦略のための広報ツールの整理

- ・目的や対象ごとの広報ツールの活用方法の整理として、各種ツールの使用状況を確認。なごや環境大学を各セクターへ紹介するツールを優先することとし、今年度は企業向けのツール制作を行った。ペーパーレス化や情報の更新性を鑑み PPT データで制作した。

2 ブランディングのためのイメージ戦略の検討

- ・デザインコンセプトに沿ったイメージの検討を行い、タグラインやロゴマークの使用に関わるガイドラインについて、案を作成した。
- ・ブランディングコンセプトの「多様性」を意識し、学生や若手デザイナーを対象としたガイドブックの表紙コンペティションを 2019 後期分、2020 前期分にて実施し最優秀賞を表紙に採用した。

3 各チームと連携した広報活動の実施

- ・メディア広告の活用として、東海ラジオへの協賛企画を行い、月 1 回のラジオ放送に加え、環境情報誌 Risa への連動掲載を行った。取材テーマは各チームからのトピックを持ち寄り発信した。
- ・中日ドラゴンズ（中日新聞社）、名古屋外国語大学との協働企画により、オリジナルエコバッグを制作・販売した。本企画は中日新聞系列のメディアに複数回紹介され、話題を呼び販売から 3 日で完売となった。売上からの利益は、名古屋港水族館振興基金へ寄付したが、セレモニーは延期とした。

4 情報発信機能の充実

- ・ウェブコンテンツ「なごやエコ最前線」にて社会で注目されつつあるテーマや新規の取組み等を取り上げ、発信。また、新たな広報手段として、プロジェクトサイトを制作し（森林プロジェクトでの取組みを見える化するために専用サイトを設置。11 月～公開）、本体サイトとは別の情報発信を試行している。ウェブサイトはじめ、各広報策に対する効果測定・検証が課題である。

ユースチーム報告 2019 年度の総括

【2019 年度 活動方針】

- 次世代育成のために、ユースが主体となる事業の展開や連携のさらなる強化・充実を図る。
- ユース主体の活動のプラットフォームの認知拡大を図るための広報強化・ユース向けグッズなどの展開を図る。

【重点取り組み事項】

1 エコアクションの企画、運営、実施への参加と支援の強化

- ・今年度も環境デーなごや 2019 中央行事に「WATSUKA MONO Village」として参画し、出展ブースの企画運営を展開した。参画した学生は内容の企画を通じて環境問題に対する知識を深め、環境デーなごや当日も多くの来場者に主体的に発信した。アンケートでの学生の満足度も高かった。しかしながら、参加学生数・大学数が例年に比べ減少したため、本企画の広報・PRを工夫し、より幅広い学生・大学を巻き込み、ユースの裾野を広げていく必要がある。
- ・森林環境譲与税を活用した主催事業「森林プロジェクト」において、ユースチームの学生が運営スタッフとして関わり、社会人ユースのチーム員も自身が所属する企業の立場から主に広報の面で協力する等、なごや環境大学の主要プロジェクトにユースのメンバーが積極的に参画した。

2 環境への関心が低いユースを対象とした企画・活動の強化

- ・学生及び社会人ユースのチーム員が主体となって「若者が若者に発信する」ための主催事業「SDGsPARTY」を企画した。SDGsに料

理やカードゲームといった楽しみ要素を織り交ぜ、若者同士が交流しながら環境問題について考える場を作った。広報（集客）の面に課題はあったが、SDGsや環境学習の必要性を参加した若者に訴えかけることができた。

- ・7月から「ユース限定共育講座体験」を開始。共育講座の受講者層のうち10代（小学生を除く）～20代の参加者が10%未満と低い現状を鑑み、若者が実際に共育講座を体験してもらうことにより、どうしたら若者がもっと参加してもらえるようになるかを振り返った。今後は、体験報告会等を通じて講座企画運営団体にフィードバックを行う。（体験報告会は新型コロナウィルス感染防止対応のため延期。）

3 既存の環境団体や高校生、大学生、社会人ユースなどとのネットワーク強化

- ・環境について語り合うワカモノだけのコミュニティ「エコワカ会」を開催。環境に興味がある若者を集め、意見交換や情報交流の場をコーディネートし、学生や社会人ユースを集めネットワークの強化を図った。また、環境というテーマを媒体とし、「若者」と「若者」がつながり「輪」となっていくイメージを表現したシンボルマークも作成した。
- ・昨年度に引き続き、愛知淑徳大学CCC開設科目「企画立案の基礎」の授業に参画し

た。今年度の課題は、環境デーなごやにおけるブース出展の内容を考える具体的なものであり、学生からもたくさんの魅力的な提案がなされた。ユースチームとしても、学生及び社会人ユースのチーム員がなごや環境大学や「WATSUKA MONO Village（ワッカモノビレッジ）」の取り組みについて説明し、学生の企画提案に対して意見やアドバイスを行う等積極的に関わった。

4 ユースチームとしての「誇り」の醸成

- ・学生及び社会人ユース用の名刺及び名札ケースを作成し、なごや環境大学のユースの活動を広報する機会を増やすとともに、ユースチーム員としての自覚を強めるきっかけとした。また、素材は間伐材を使用し環境配慮も意識した。
- ・「2020 愛知環境賞」に、これまでのユースの活動をテーマとして応募申請した。ヒアリング審査の場に学生及び社会人ユースのチーム員全員が出席し、発表や質疑応答を行った。表彰には至らなかったが、ユースチームとして大変貴重な経験となった。
- ・ユースの活動に参画する新たな人材を発掘するためのパンフレットを作成。今後様々な場面で積極的に活用し、若者が若者に対してユースの活動や魅力を発信していくことにより、ユースの人材を確保していく。

森林プロジェクト報告 2019 年度の総括

【2019 年度 活動方針】

環境首都なごやの実現を目指す「なごや環境大学」において、森林環境譲与税の活用を通じて、市民への普及啓発や人材育成等、森林整備の促進に向けた取り組みを実施し、グリーンインフラの整備など、持続可能な社会づくりや新たな人づくり・人の輪づくりに活かす機会としていく。

【重点取り組み事項】

1 森林管理の現状把握と課題解決に向けた仕組みの検討

- ・デザイン思考を活用したプログラムを推進し、楽しみながら体感・共感～問題の定義付け～アイデア発想～検証へとつながる企画を、設楽町神田区をフィールドに展開した。
- ・名古屋でも森林について学べる機会として、設楽町神田区の材料を使った箱庭ジオラマづくりや精油蒸留体験を実施し、名古屋と設楽町神田区を相互に関連付けながらプログラムを展開した。

2 なごや環境大学の資源を活かした交流と協働のコーディネート

- ・参加者募集時に、共育講座団体ははじめとするつながりある主体への積極的な声かけを行い、

森林系の講座企画者や大学生、チーム員等が自主的に関わることとなった。結果として多様な属性が集まった参加者の中で、各プログラムにおいても協力的な進行と雰囲気づくり、交流などリードしてくれる存在となり、「楽しさ」を体感できた参加者が次の回に友人を新たに連れてくるなど広がりを実感できる展開が生まれた。

3 モデル展開のための事業検証

- ・各回プログラム終了後にプロジェクトチーム会議を開催。当日参加できなかったメンバーも含め、ふりかえりと今後に向けての議論を重ね、プログラムの進行イメージや神田地区との協働の在り方など、方針の調整を適宜行った。
- ・各回の実施レポートをまとめ、ウェブサイトや参加者宛メール「森イキ！通信」で発信した。

全プログラム終了後には、活動報告書の作成を通じて「見える化」した。

4 継続・発展のためのネットワーク構築

- ・都市部にはない設楽町神田区の魅力（ふれあいセンターや古民家の利用、自然体験、木工教室等）を活かし、事業終了後も設楽町神田区へ人が集まり森林保全や地域活性化につながるような取り組みを提案書にまとめた。提案書の作成にあたり、参加者同士が連絡を取り合い、打合せをするなど、プロジェクトとしての一体感が生まれ、提案を実践に繋げられる機運が高まった。
 - ・ネットワーク構築のため、豊橋市役所や設楽町役場との連携をはかり、今後の展開にご協力いただけるよう調整を図った。
- ※成果発表会はコロナウィルス感染症対策のため、延期となっている。



なごや環境大学の歩み

前史・第1期・第2期

名古屋の環境動向

なごや環境大学の歩み

5月：「脱レジ袋宣言」を発表
11月：第1回エコ事業所の認定
藤前干潟がラムサール条約に登録

2002
年度

1月 名古屋市長年頭記者会見で構想発表

3月 基本構想検討委員会を発足

10月：レジ袋削減に向けた市内共通還元制度
「エコクーびょん」を開始(～平成21年3月)

2003
年度

10月 基本構想を策定・公表

3月 市民講座企画づくりワークショップを開催



プレシンポジウム

2004
年度

4月 実行委員会を発足

8月 2005年度共有講座公募

11月 プレシンポジウム「市民と行政の協働を考える」を開催

12月 プレ講座「環境首都をめざしたまちづくり」を開講

2月 共有講座企画運営団体(市民団体・企業)との交流を開催

「環境ハンドブック2005」を発行

3月 開講式&記念シンポジウムを開催

8月：リユースカップ事業を開始
広小路夏まつり会場で打ち水を実施

2月：京都議定書の発効

3月：「なごやエコキッズ」213園・
「なごやスクールISO」153校を認定
「愛・地球博」開幕

6月：環境デーなごや2005「もういちど!大作戦」
を実施

7月：愛・地球博さしまサテライト会場ほか
市内51箇所で行った打ち水を実施(～9月)

11月：EXPOエコマネーセンターがアスナル金山
に開設

2005
年度

4月 共有講座開始(2005年度82講座・476回)

7月 シンポジウム2005「環境時代と大学・地域・市民」を開催

10月 まちづくりシンポジウム「次世代につなぐ環境首都をめざして」を開催

3月 なごや環境大学平成17年度活動報告会を開催

8月：なごや循環型社会・しみん提案会議発足

1月：中区栄において都心と郊外の

CO₂濃度の比較表示を開始

2月：エコマネーサテライト開設(名古屋環境学習
センター/名古屋リサイクル推進センター)

3月：「国際市長会議—都市と生物多様性—」
(ブラジル・クリチバ)出席

2006
年度

4月 共有講座開始(2006年度110講座・574回)

9月 環境デーなごや「なごや環境大学のひろば」開催開始

10月 「上流・下流のつながり」を開催

2月 「地球温暖化の真実」を開催

6月：生物多様性条約第10回締約国会議
(COP10)誘致委員会設立

9月：なごや循環型社会・しみん提案会議が
「しみん提案」発表

10月：緑区にて「レジ袋有料化促進モデル事業」開
始

11月：IPCC第4次評価報告書統合報告書の公表

3月：名古屋市バイオマスタウン構想を策定

2007
年度

4月 なごや環境大学学生チーム「エコネクスなごや」発足

共有講座開始(2007年度133講座・616回)

10月 東山新池かいぼりプロジェクト(なごや環境学・番外編)
「1021新池かいぼり大作戦」を開催(21日)

11月 なごや環境大学「第2期ビジョン」を策定

2月 環境ハンドブック改訂版「なごや環境ハンドブック」発行

3月 2008愛知環境賞「中日新聞社賞」受賞

「あいちモリコロ基金」(2008年度大規模活動)助成決定

5月：第4次一般廃棄物処理基本計画を策定

7月：第1回「脱温暖化2050なごや戦略」策定
検討会開催

9月：「第16回アジア太平洋環境会議」を開催

12月：化学繊維・人工皮革・ゴムを
不燃ごみから可燃ごみへ区分変更
「エコドライブマイスター認定制度」を開始

2月：『「ごみ非常事態宣言」10周年シンポジウム
～ごみ減量のこれまで、これから～』開催

3月：「水の環境復活2050なごや戦略」策定

2008
年度

4月 共有講座開始(2008年度138講座・567回)

5月 「しみん提案」の実現を目指す「循環型社会推進チーム」発足

9月 エコアジア2008(プレCOP10)開催記念環境シンポジウム開催

12月 エコネクスなごやが全国大学生環境活動コンテスト(エココ
ン2008)「グランプリ・環境大臣賞」受賞

3月 「あいちモリコロ基金」(平成21年度大規模活動)助成決定

4月：レジ袋有料化全市拡大

11月：「生物多様性自治体会議2009」開催
「低炭素都市2050なごや戦略」策定

3月：「名古屋市版レッドリスト2010」公表
「生物多様性なごや戦略」策定

2009
年度

4月 共有講座開始(2009年度152講座・674回)

6月 「地方の元気再生事業」採択

8月 「藤原紀香『Smile Please!!』トークショー&写真展開催

9月 環境デーなごや「生物多様性パーク」開催

1月 「エコシティ・サミット～市民はいかに動いたか～」開催

なごや環境大学の歩み

第2期・第3期

名古屋の環境動向		なごや環境大学の歩み
5月：URBIO2010（都市における生物多様性とデザイン国際会議）開催 10月：「カルタヘナ議定書第5回締約国会議（COP-MOP5）」開催 「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」開催 「生物多様性国際自治体会議」開催  交流フェアブース	2010年度	4月 共育講座開始（2010年度 173講座・727回） 中日新聞社共催「ビバちぎゅうきょうしつ」第1回「生命を育む海」開催 5月 生物多様性連携プロジェクト発足 9月 「生物多様性屋台村 いのちの恵みを『いただきま〜す』」出展 10月 「生物多様性交流フェア」出展 2月 「生物多様性あふれるまち・なごやに100人ワークショップ〜COP10から始めよう〜」開催 3月 「南極料理人西村淳さんによる“究極のエコライフ”」開催
4月：プラスチック製品を不燃ごみから可燃ごみへ区分変更 9月：市役所などに電気自動車を導入 「なごや生物多様性センター」を設立 「国連持続可能な開発のための教育の10年」最終年会合が2014年に愛知県名古屋市で開催されることが決定  なごや環境学 2011	2011年度	4月 共育講座開始（2011年度 161講座・663回） 5月 地球環境学第1回公開講座「映画『THE AGE OF STUPID』上映会＋トークライブ」開催 9月 環境デーなごや「つくる・育てる・楽しむプロジェクト」として衣食住をテーマとした3ブースを出展 10月 名古屋市教育委員会共催「環境未来探検隊」体験活動開催 「COP10 1周年記念シンポジウム〜都市インフラとしての自然を考える〜」開催 11月 東日本大震災を受け、防災関連講座「なごや環境学 2011〜リスク管理とまちづくり〜」を開催 12月 なごや環境大学「第3期ビジョン」を策定 「Winter Concert 2011〜宇宙からみた地球環境、森林の大切さを感じる音楽会〜」開催 3月 「新しい公共支援事業基金」（2012年度活動）助成決定
5月：ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会設立 7月：「名古屋市集団回収における古紙の持ち取り防止に関する条例」施行 10月：バイオディーゼル燃料化モデル事業を全市で実施	2012年度	4月 特定の環境テーマで、調査・研究・社会実験等を行う「共育ゼミナール」を開始（4団体） 共育講座・ゼミナール開始（2012年度 164講座・601回） 9月 環境デーなごや 2012 中央行事で名古屋市と協力し、「持続発展共育（ESD）に関するユネスコ世界会議」に向けた特別企画を開催
4月：リサイクル推進センター閉館に伴い、環境学習センターにおいて一部機能継承 1月：ESD イヤーキックオフイベント開催 2月：小型家電リサイクル開始	2013年度	4月 共育講座・ゼミナール開始（2013年度 149講座・568回） 5月 子どもたちが主役のESDワークショップ「命が大切にされる未来を創るんだ」開催（5～11月・全5回） 9月 「環境デーなごや 2013 中央行事」に参画 12月 「Winter Concert 2013〜愛と音楽は未来への懸け橋を創る〜」開催
6月：「ESD ユネスコ世界会議半年前イベント」開催 11月：「ESD シンポジウム」開催 「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」開催 2月：「低炭素モデル地区事業」2地区を認定  10周年記念シンポジウム	2014年度	4月 共育講座・ゼミナール開始（2014年度 165講座・591回） 5月 いのちつながるESDワークショップ2014開催（5～9月・全5回） 6月 「ESD ユネスコ世界会議半年前イベント」に参画 9月 「環境デーなごや 2014 中央行事」に参画 11月 「ESD ユネスコ世界会議併催イベント」に参画 3月 10周年事業 オープンキャンパス！開催 「リソースマッチングプレゼン大会」開催
5月：第二処分場の開設 12月：国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において「パリ協定」を採択 3月：「なごや環境学習プラン」策定 第5次一般廃棄物処理基本計画策定	2015年度	4月 共育講座・ゼミナール開始（2015年度 159講座・574回） 8月 名古屋気温測定調査 2015 実施（市内 165地点） 9月 「環境デーなごや 2015 中央行事」に参画し、学生企画「WATSUKA MONO Village」を展開 10周年記念コンサート with ブランタン管弦楽団「未来を創るチカラ〜つながるエコひろがるハッピー〜」開催 10周年記念シンポジウム「未来を創るチカラ〜人とまち〜」開催 「協働型環境学習のしくみづくりに関する自治体ミーティング」開催



なごや環境大学の歩み

第3期・第4期

名古屋の環境動向

なごや環境大学の歩み

- 10月：スプレー缶類の排出方法を穴あけ不要に変更
災害廃棄物処理計画策定
11月：平成28年度水銀添加廃製品回収促進業務
(環境省モデル事業)を実施



エコプロ2016

- 10月：蛍光管・水銀体温計等の拠点回収を開始
3月：「低炭素都市なごや戦略第2次実行計画」
策定



オープンキャンパス

- 5月：名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」
リニューアルオープン
2月：ごみ非常事態宣言から20年を記念した式典
を開催



なごやのみらい Open Together !

- 7月：名古屋市が「SDGs未来都市」に選定
1月：「未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」
せいかりレー キックオフイベント」～あい
ち・なごや生物多様性 EXPO～開催

2016
年度

2017
年度

2018
年度

2019
年度

- 4月 共育講座・ゼミナール開始 (2016年度 151 講座・564 回)
6月 「みんなで歩く ワクワクなごや」開催 (6～12月・全5回)
9月 「環境デーなごや2016 中央行事」に参画し、学生企画
「WATSUKA MONO Village」を展開
11月 持続可能な明日をめざすシンポジウム「いのちつながる街づ
くり担い手づくり」開催
12月 「エコプロ2016～環境とエネルギーの未来展～」に参画
3月 「春のオープンカフェ at テレビ塔」開催
4月 共育講座・ゼミナール開始 (2017年度 147 講座・455 回)
5月 第4期ビジョン策定
9月 「環境デーなごや2017 中央行事」に参画し、学生企画
「WATSUKA MONO Village」を展開
11月 名古屋外国語大学との連携に関する協定書締結
「ウィンターコンサート2017～音楽でつながろう！みんな
地球市民～」開催
持続可能な明日をめざすシンポジウム開催
12月 「エコプロ2017～環境とエネルギーの未来展～」に参画
1月 「みんなで防災・減災を考え行動しよう!!～持続可能な社会
づくりのために～」開催
2月 「オープンキャンパス at 名城公園 tonarino」開催
3月 共育講座・ゼミナール開始 (2018年度 177 講座・483 回)
5月 愛知学院大学との連携協定締結
9月 「環境デーなごや2018 中央行事」に参画し、学生企画
「WATSUKA MONO Village」を展開
10月 「なごやのジレンマ！名古屋市北エリアを例に考える持続可
能なまち・人・仕事？いや生活！」開催
11月 ユース主催講座「自然栽培を知ろう！～おいしいやさいはど
んな味？～」開催
持続可能な明日をめざすシンポジウム開催
1月 豊かさを考える SDGs 映画会&トーク開催
2月 ごみ非常事態宣言20周年記念イベント「なごやのみらい
Open Together！」開催
4月 共育講座・ゼミナール開始 (2019年度 147 講座・525 回)
7月 「お買い物からSDGsを知る！『環境白書から実践へ』」開催
8月 森イキ！デザインプロジェクト開始
9月 「環境デーなごや2019 中央行事」に参画し、学生企画
「WATSUKA MONO Village」を展開
11月 「なごやの環境平成史」開催 (11月～2月・全4回)
1月 「SDGsに向けての協働型のしくみづくりに関する自治体
ミーティング」開催



なごや環境大学運営協力者一覧

市民・市民団体

特定非営利活動法人 えこども
認定特定非営利活動法人 恵那山みどりの会
evergreen 〜根っこを育む自然塾〜
エビコンサル
ORIGAMI 倶楽部
かすがい里山自然楽校
かすがい東部丘陵自然観察会
カムハウスラボ中部ネットワーク
川ナビ歩こう会
環境カウンセラー 岡本明子
環境ボランティアサークル亀の子隊
特定非営利活動法人 芸術の広場ももなも
劇団森のパレット
災害ボランティアちくさネットワーク
特定非営利活動法人 三信南信 Maido 倶楽部
CE 技術の会
設楽町神田区
庄内緑地ネイチャ・フィーリング自然観察会
森林インストラクター会 “愛”
スマイルスケッチ
スマイルフォレスト
NPO チームばんどり
地球エコ防衛隊
地球ハグ倶楽部
手あみ生涯学習ぐるーぶ
特定非営利活動法人 東海自然学園
東谷山ニホンミツバチプロジェクト実行委員会
なごや環境サポーターネットワーク
なごや環境塾 どんぐりころころグループ
名古屋工業大学 ごきそ技術士会
なごやネイチャーゲームの会
なごや外来種を考える会
なごやの生き物調査の会
名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会
生こみ出さないプロジェクト
にしお映画製作実行委員会
錦二丁目まちづくり協議会
NPO 法人 日進野菜塾
公益社団法人
日本技術士会中部本部愛知県支部
公益社団法人
日本技術士会中部本部・中部倫理委員会
公益社団法人
日本山岳会東海支部 猿投の森づくりの会
公益社団法人 日本造園学会中部支部
ネイチャートライアングル
ノートルモンド名古屋
ピオトープ・ネットワーク中部
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会
NPO 法人 藤前干潟を守る会
特定非営利活動法人
ヘルピングハンズアンドハーツジャパン
米米 (マイマイ)
特定非営利活動法人 マルベリークラブ中部

味覚教育 labo TASTE CLUB

NPO 法人
「みたけ・500 万人の木曾川水トラスト」
NPO みのむしックス
モノサシなごや (都市の自然のモノサシ研究会)
守山リス研究会
やまがたフットバス実行委員会
養生キッチンふんど
よりあい工房ばんどり
りとるらぼ
リユースプロジェクト「めぐる」
レイチェル・カーソン日本協会東海フォーラム
特定非営利活動法人 わっぱの会

企業・事業者

一般社団法人 愛知県建設業協会
愛知県古紙協同組合
愛知県再生資源団体連合会
公益社団法人 愛知県不動産鑑定士協会
アクティオ株式会社 名古屋営業所
株式会社アビゾ
SMBC コンシューマーファイナンス株式会社
株式会社エステム
株式会社 加藤建設 自然環境課
環境シゴト博実行委員会
株式会社 熊谷組 名古屋支店
グリーンサイクル株式会社
株式会社 国際デザインセンター
清水建設株式会社 名古屋支店
株式会社 地域環境計画 名古屋支店
株式会社 中日新聞社
中部電力株式会社
環境・地域共生室環境経営チーム
中部土木株式会社
中部リサイクル株式会社
東邦ガス株式会社
戸田建設株式会社 名古屋支店
トヨタ自動車株式会社
中日本高速道路株式会社 名古屋支社
一般社団法人 名古屋建設業協会
公益財団法人 名古屋国際センター
公益財団法人 名古屋まちづくり公社
株式会社 セツ平高原 (中津川市ふれあい牧場)
農業文化園・戸田川緑地
(戸田川緑地管理センター)
ブラザー工業株式会社
みどりの風グループ 共同事業体代表者 (公財)
名古屋市みどりの協会・名古屋市みどりが丘公園
株式会社 山田組

大学・行政・その他

愛知学院大学
名城公園キャンパス地域連携センター
愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター
名古屋市立大学大学院経済学研究科
名古屋外国語大学
環境省中部地方環境事務所
熱田生涯学習センター
イーブルなごや (名古屋市女性会館)
北生涯学習センター
昭和生涯学習センター
千種生涯学習センター
天白生涯学習センター
中川生涯学習センター
中生涯学習センター
中村生涯学習センター
西生涯学習センター
東生涯学習センター
瑞穂生涯学習センター
緑生涯学習センター
港生涯学習センター
南生涯学習センター
名東生涯学習センター
守山生涯学習センター
諏訪愛岐の森育成会
名古屋市愛岐処分場
名古屋市環境科学調査センター
名古屋市環境学習センター (エコパルなごや)
名古屋市環境局 環境企画課
名古屋市環境局 減量推進室
名古屋市環境局 低炭素都市推進課
名古屋市民経済局 消費流通課
名古屋市上下水道局 調査課 水の歴史資料館
なごや生物多様性センター



2019 年度「なごや環境大学」実行体制

実行委員長 堀場和夫

学長 涌井史郎

代表幹事

大鹿聖公

●監事

加藤明司
植村信一
(市会計室)

●参与

片桐泰明(中部経産局) 佐藤綱洋(名商)
香坂 玲(名古屋大学) 祖山 薫(中経連)
小林直人(中部運輸局) 柘植孝之(県環境局)
高橋 賛(東海農政局) 梶田達也(中部地整局)
萩ノ脇裕司(中部地方環境事務所)

実行委員

チーム員

■ 企画チーム

松本イズミ*

野中賢輔

九里徳泰

江坂恵里子

小林幸江

宮木歩美

鈴木慎太郎

曾我幸代

■ 活動サポートチーム

吉田耕治*

前田洋枝

緒方隆文

山口ゆずみ

浦野 愛

■ 広報チーム

杉野 実*

西野圭一郎

横山陽二

上田聰司

加藤美奈

中森浩二

■ ユースチーム

鵜飼宏成*

平石晶代

井垣理史

田嶋佑奈

堀部沙也加

岸 晃大

鈴木菜月

深津あづ美

増田達雄 (市環境局)

加藤玲子 (女性会)

藤井昌也 (市教委)

河田誠一 (市総務局)

神野英之 (区政協)

中村 剛 (保健環境委員)

坪井明治 (名商連)

小川勝美 (EPOC)

蒲 和宏 (事務局長)

丹羽陽子

天野ゆうみ

金井寿恵

加藤香央里

寺西慶徳(主幹)

遠山直人(主査)

西 裕史

山川明音

事務局



発行/「なごや環境大学」実行委員会 発行年月/2020年5月

問合せ先/「なごや環境大学」実行委員会 事務局

〒460-0008

名古屋市中区栄一丁目23-13 伏見ライフプラザ13階

(名古屋市環境学習センター エコパルなごや内)

TEL・FAX 052-223-1223

Eメール jimmu@n-kd.jp

ウェブサイト <https://www.n-kd.jp>

表紙デザインは名古屋デザイン&テクノロジー専門学校 総合デザイン科 山田真彩子さんにご協力いただきました。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C016129